太宰府市の文化財第70集

大宰府条坊跡23

— 第70・187・188次調査 —

平成17年

太宰府市教育委員会

太宰府市の文化財第70集

大宰府条坊跡23

— 第70・187・188次調査 —

平成17年

太宰府市教育委員会

序

大宰府条坊は、大宰府政庁を中心に整備された奈良時代から平安時代にかけての計画都市であります。大宰府条坊跡については、現在まで数多くの調査が行われ、次第にその全容もわかりつつあります。

今回の報告書は通古賀交差点周辺で行われた発掘調査の成果をまとめたものです。丸太を刳り貫いて作られた、珍しい平安時代の井戸の内部からは、官人などが身につける石帯が見つかり、身分の高い人が暮らしていたことが想像されます。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用されることを心より願います。

最後になりましたが、文化財に対してご理解頂きました皆様をはじめ、関係諸機関の皆様方に心よりお礼申し上げます。

平成17年３月

太宰府市教育委員会

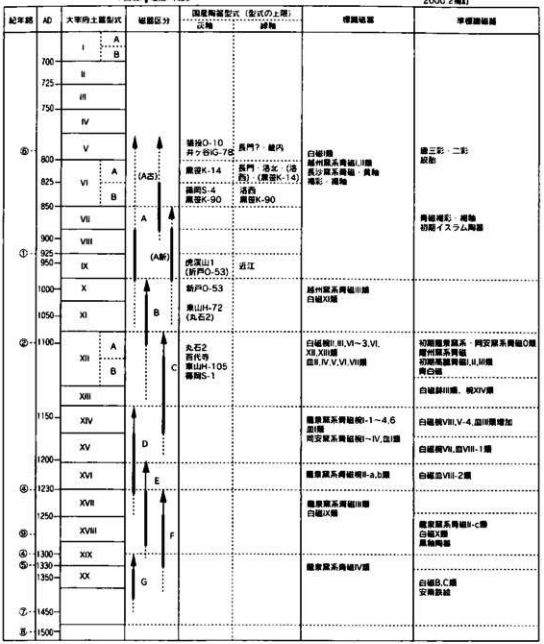
教育長　關　敏治

例言

1．本書は太宰府市通古賀２・５丁目で行われた大宰府条坊跡の発掘調査報告書である。
2．遺構の実測には、国土調査法第Ⅱ座標系を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限りＧ.Ｎ.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
3．遺構の実測及び写真撮影は各担当者および谷由紀子、上村英士（現筑後市教委）が行った。
4．遺構の空中写真撮影は空中写真企画（代表壇睦夫）が行った。
5．出土した鉄製品の保存処理は下川可容子、安芸朋江が行った。
6．遺物の実測は森田レイ子、宮崎が行った。
7．遺物の写真撮影はフォトハウスおか（代表岡紀久夫）が行った。
8．図の浄書は宮崎が行った。
9．本書に用いた分類は以下のとおり。
　陶磁器……『大宰府条坊跡XV』（太宰府市の文化財第49集）2000
　土器……『大宰府条坊跡II』（太宰府市の文化財第７集）1983
10．本書の執筆および編集は、宮崎が担当した。

目次

Ⅰ、遺跡の位置と歴史 ……3
Ⅱ、調査体制 ……3
Ⅲ、調査および整理方法 ……4
Ⅳ、調査報告
　１、第70次調査 ……6
　　(1) 調査に至る経過 ……6
　　(2) 基本層位 ……6
　　(3) 検出遺構 ……6
　　(4) 出土遺物 ……6
　　(5) 小結……13
　２、第187次調査 ……14
　　(1) 調査に至る経過……14
　　(2) 基本層位……14
　　(3) 検出遺構……15
　　(4) 出土遺物……17
　　(5) 小結……21
　３、第188次調査 ……23
　　(1) 調査に至る経過……23
　　(2) 基本層位……23
　　(3) 検出遺構……23
　　(4) 出土遺物……24
　　(5) 小結……30
Ⅴ、調査まとめ……30



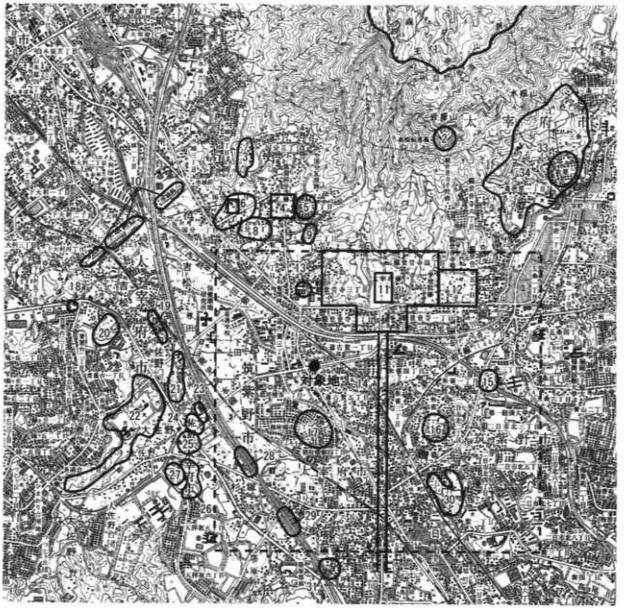
大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁器編年

紀年銘資料

①A.D.927　延長5年,大宰府74次SD205A溝
②A.D.1091　寛治5年,平安京左京4条1坊SE8井戸
③A.D.1224　貞応3年,大宰府33次SD605溝
④A.D.1304　嘉元2年,大宰府109.111次SD3200溝
⑤A.D.1330　元徳2年,大宰府45次SX1200溝
⑥A.D.784　延暦3年,長岡京102次SD10201溝
⑦A.D.1459　1465 長禄3・寛正5年,福岡市井相田C II・SG16池
⑧A.D.1501　文亀元年,大宰府70次SD1805溝
⑨A.D.1265　文永2年,博多62次713土壙

文献

①九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
②田辺昭三　西川義彦「平安京跡発掘調査報告左京四条一坊」1975 平安京調査会
③九州歴史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
④九州歴史資料館「大宰府史跡昭和61年度発掘調査概報」1989
⑤九州歴史資料館「大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報」1978
⑥長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集」1988
⑦福岡市教育委員会「井相田C遺跡II」「福岡市埋蔵文化財調査報告書179」1988
⑧九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
⑨福岡市教育委員会「博多48」「福岡市埋蔵文化財調査報告書397」1995



1. 大野城跡
2. 岩屋城跡
3. 陣ノ尾遺跡
4. 筑前国分寺跡
5. 辻遺跡
6. 国分松本遺跡
7. 筑前国分尼寺跡
8. 国分千足町遺跡
9. 御笠団印出土地
10. 水城跡
11. 大宰府政庁跡
12. 観世音寺
13. 遠賀団印出土地
14. 大宰府条坊跡(破線内)
15. 君畑遺跡
16. 般若寺跡
17. 市ノ上遺跡
18. 神ノ前窯跡
19. 原口遺跡
20. 篠振遺跡
21. 前田遺跡
22. 宮ノ本遺跡
23. 雛川遺跡
24. フケ遺跡
25. 尾崎遺跡
26. 脇道遺跡
27. 殿城戸遺跡
28. 剣塚遺跡
29. 唐人塚遺跡
30. 峯遺跡
31. 桶田山遺跡
32. 太宰府天満宮(安楽寺跡)
33. 浦城跡
34. 原遺跡

Fig.1　太宰府市およびその周辺遺跡位置図（1/30000）

Ⅰ、遺跡の位置と歴史

太宰府市は、北に四王寺山、北東に宝満山、南に背振山地東端の天拝山に囲まれ、さながら盆地的な様相を示している。これらの山々が途切れている北西に福岡平野が、南東に筑後平野が広がっている。二つの平野に挟まれた狭い平地を古代には官道が、現代では鉄道や高速道路が通り抜け、今も昔も交通の要衝となっている。

これらの山裾に位置する佐野地区や国分地区には低丘陵が続き、その丘陵一帯や縁辺部では、旧石器時代から古墳時代にかけての集落や遺物が確認されている。旧石器時代の遺物は、市西部の大佐野地区脇道遺跡で約1500点の剥片が出土したほか市内各所で散発的に旧石器が出土している。縄文時代になっても遺構の発見例は多くはないが、前田遺跡などでは竪穴住居が検出され、低丘陵に集落があった可能性も考えられる。また、古代の条坊域にあたる平野部でも縄文土器が散発的に出土している。今回の報告現場周辺でも第106・141次調査で僅かに縄文土器が出土している。弥生時代から古墳時代にかけての集落は、縄文時代に遺構が確認される地域と重なり、国分松本遺跡では甕棺墓群が確認され、前田遺跡などでは竪穴住居が重複した状況で集落跡が確認されている。古墳時代には、宮ノ本遺跡の丘陵で、内部主体が割竹形木棺で鏡を副葬する古墳をはじめ、前期を中心とした古墳群が営まれている。５世紀に帆立貝形の前方後円墳である成屋形古墳や6世紀後半の陣ノ尾古墳などが市北西部に築かれているが、平野部で集落などの遺構が確認されることは少なく、大規模な生活圏があったとは言い難く、福岡平野と筑後平野に大規模集落の狭間に位置したことが窺える。

古代にはこの狭い平野の北端に大宰府政庁を置き、前面にいわゆる大宰府条坊と呼ばれる都市が整備された。その規模は南北22条、東西12坊におよび、南辺部は筑紫野市まで広がっている。今回報告する地域では、過去十数か所発掘調査が行われ、周辺の調査（太宰府市の文化財第30集）では、東西南北に走る溝が検出され、条坊痕跡として右郭条坊を考える上で貴重な所見を得ることができている。

中世になると観世音寺や太宰府天満宮などかつての条坊域の東部へと遺構は広がり、宝満山を含め寺社を中心にその周辺一帯で高い密度で遺構が展開している。

近世の太宰府は太宰府天満宮を中心に集落が形成され、今回報告する通古賀は、二日市から博多へ抜ける日田街道が通り、街道筋の集落として形成されたものである。集落の周囲に広がる田圃の畦畔は条坊痕跡を残すものとして条坊研究に欠かせないものであったが、近年は宅地開発が進み田畑は数少なくなり、かつての面影を全く残していない。

Ⅱ、調査体制

(昭和63／1988年度)…第70次調査

総括	教育長	藤　寿人
庶務	教育部長	西山義則（63年12月１日～）
	社会教育課長	花田勝彦（～63年11月30日）
		関岡　勉（63年12月１日～）
	文化財係長	鬼木冨士夫
	主　　事	岡部大治（63年12月１日～）
		白水伸司
		川原和典（～63年11月30日）

調査	技　　師	山本信夫
		狭川真一
		緒方俊輔（調査担当）
	技師（嘱託）	山村信榮

（平成８／1996年度）…第187・188次調査

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	小田勝弥
	文化課長	津田秀司
	文化財保護係長	和田敏信
	文化振興係長	大田重信（～８年６月30日）
		田中利雄（８年７月１日～）
	主任主事	岡部大治　川谷　豊
	主　事	今村江利子
調査	技術主査	山本信夫
	主任技師	狭川真一　城戸康利　山村信榮　中島恒次郎
		井上信正
	技　師	高橋　学
		宮崎亮一（調査担当）
	技師（嘱託）	下川可容子　森田レイ子

（平成16／2004年度）…報告書発行

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	松永栄人
	文化財課長	木村和美
	保護活用係長	久保山元信
	調査係長	永尾彰朗
	事務主査	藤井泰人（～６月30日）
		齋藤実貴男（７月１日～）
	主任主事	大石敬介
調査	主任主査	城戸康利
	技術主査	山村信榮　中島恒次郎
	主任技師	井上信正　高橋　学　宮崎亮一
	技師（嘱託）	下川可容子　森田レイ子　柳　智子
		渡邊　仁　長　直信　松浦　智（７月１日～）

III、調査および整理方法

調査および整理方法については、『佐野地区遺跡群Ⅰ』（太宰府市の文化財第14集 1989）、『太宰府市における埋蔵文化財調査指針』（太宰府市教育委員会 2001年９月改訂）に基づいている。

第70次調査はバックホーによって、遺構面まで表土を除去し、確認できた溝等の掘削を行ったが、比

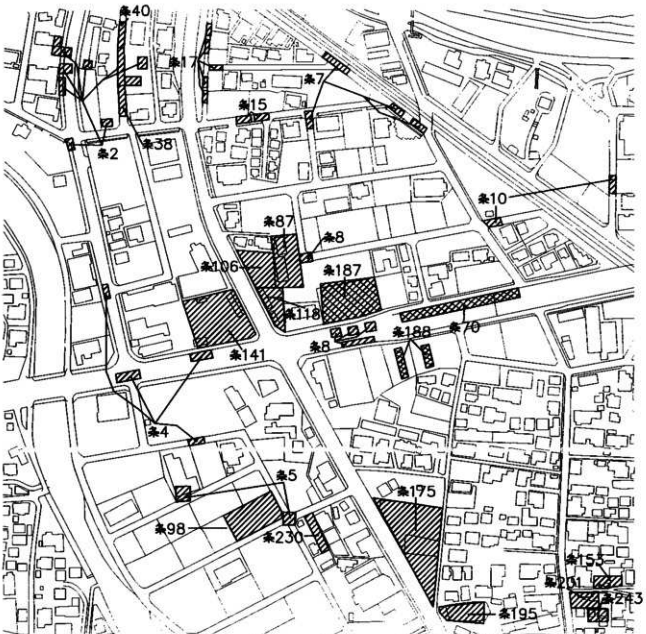


Fig.2　報告地点およびその周辺調査位置図（1/3000）

較的新しい時期であったため、トレンチを設定し、バックホーによって掘削し、これらの地盤の状況の把握、遺物の採集を行った。この調査区が氾濫原であることが判明したため、遺構図等は作成していない。第187調査は、バックホーにより試掘を行い、遺構の存在する範囲を確定し、その後バックホーにより遺構面まで表土を除去し、発掘調査を進め、国土座標を基準に遺構図等を作成した。遺構全体図および土層実測図は1/20で作図した。第188次調査は、トレンチ調査であったため、調査の安全上支障が無い深さまでバックホーによって掘削し、その後人力で精査した。土層実測図を1/20で作図し、全体配置図兼略測図は平板測量で行った。

整理について、貿易陶磁器は『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類－』に基づいて分類し、出土遺物一覧表に分類と破片数を掲載したのみで、実測図の掲載を行っていないが、分類不明なものや出土が稀な陶磁器について実測図を掲載した。

Ⅳ、調査報告

1．第70次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市通古賀字北橋403他（現在、通古賀２丁目・５丁目）である。鏡山猛条坊案右郭９条４・５坊に位置する。

観世区画整理に伴い、通古賀交差点から大宰府政庁跡前面につながる道路の新設に先立ち、発掘調査を行った。調査は昭和63(1988)年２月12日から開始した。調査を進める中で調査地の基盤が氾濫原であることが確認されたため、調査終盤に調査区中央にトレンチを設定し、淡灰色砂をバックホーで掘り下げ、包含する遺物を採集し、昭和63（1988）年３月１日に調査を終了した。調査面積は約400m²を測る。調査は緒方俊輔が行った。

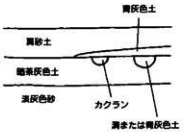


Fig.3　第70次調査基本層位

(2) 基本層位

基本層位は、上位からコンクリート基礎などを含む真砂土と青灰色土、暗茶灰色土、淡灰色砂である。暗茶灰色土は細分すると上位はやや粘質で、大きな攪乱と溝などが確認される。淡灰色砂の上位は鉄色をしている。

(3) 検出遺構

氾濫原

70SX001

対象地では表土である真砂土除去後、暗茶灰色土に掘り込まれた窪みや溝が多く確認できたが、そのほとんどが青灰色の埋土で、近世以降の土地の耕作や改変に伴う掘削と推測された。暗茶灰色土の下層は、淡灰色砂で人為的な痕跡が確認できず、調査区全体が氾濫原であることが確認できた。そこで氾濫原の時期特定のため、淡灰色砂層にトレンチを設定し包含する遺物を採集した。淡灰色砂の深さは1m以上で多くの遺物とともに木片も混じっていた。

(4) 出土遺物

淡灰色砂上面土層出土遺物（Fig.4、Pla.10）

淡灰色砂の上面には暗茶灰色土や青灰色土が覆い、それらに溝状の掘り込みや攪乱が見られ、遺構番号を付して遺物は取り上げた。その遺物のうち、陶磁器はC･D期（11世紀後半～12世紀後半）のものが最も多い。それ以後の遺物も少量出土している。ここではそれら13世紀以降の遺物を中心に報告する。

土師器

小坏a（１）　復元口径8.0cm、小皿bに近い。S-47出土。

坏b（２）　体部は外開き。器面調整は摩滅し不明だが水挽きとみられる。復元底部径8.6cm。攪乱出土。

小皿a（４～10）　復元口径7.8～9.0cm。７・８は攪乱、９はS-83、10はS-47出土。

小皿b（３）　口径6.0cmでほぼ完形。底部糸切り、内面底部はナデ、体部は回転ナデ。青灰色土(東側)出土。

土師質土器

鉢（11）　口縁部で、端部内面は僅かに肥厚している。内面ハケ目調整。青灰色土（中央）出土。

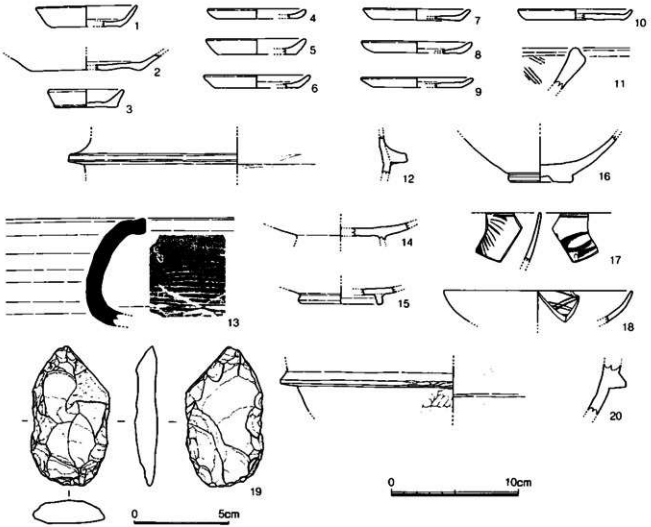


Fig.4　第70次調査淡灰色砂上面土層出土遺物実測図（1/3、19は1/2）

羽釜（12）　内面ナデ、外面ヨコナデ。鍔の下面に煤が厚く付着している。鍔部分の径6.8cm。青灰色土（中央）出土。

須恵質土器

甕（13）　内面はヘラケズリ、口縁端部はヨコナデ、外面は平行する叩きのあとヨコナデを行う。胎土は暗灰色で1～2mm程の白色砂粒が混じる。S-43出土。

緑釉陶器

皿（14）　釉は薄緑色で光沢がある。外面は斑点状に釉の濃い部分がある。胎土は精製され、焼成は硬質。近江産か。青灰色土出土。

灰釉陶器

皿c（15）　内面底部の中央付近は露胎、外面は高台外面に斑点状に僅かに釉が残る。釉は緑灰色である。復元高台径6.7cm。黒笹90号窯式のものか。S-5出土。

長沙窯系青磁

椀（16）　体部下半は露胎。高台畳付けに目跡が残る。内面底部付近に点で露胎している部分があり、重ね焼き時の目跡とみられる。高台径5.0cm。S-36出土。

国産磁器

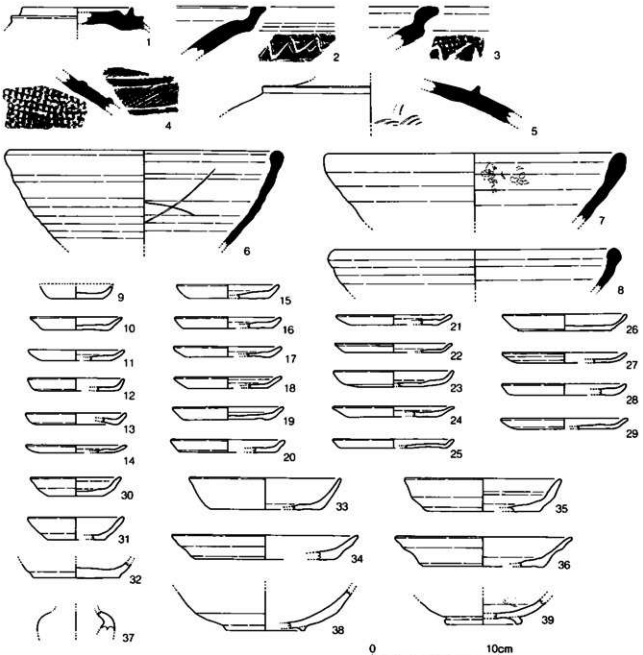


Fig.5　第70次調査淡灰色砂（中央）出土遺物実測図１（1/3）

椀（17）　薄く施釉し、内外面に濃青色で施文している。S-15出土。

椀×皿（18）　内面に淡青色の文様を施している。復元口径14.8cm。S-17出土。

石製品

スクレイパー（19）　端部は細かい調整を行っている。安山岩製。攪乱出土。

石鍋(20)　外面は工具によるケズリ痕跡と使用時のキズが残る。内面はケズリ目が残っていない。鍔部分の径は27.2cm。滑石製。S-47出土。

淡灰色砂（中央）出土遺物（Fig.5～8、Pla.9・10）

トレンチを設定し遺物採集を行ったため、遺物量は非常に多い。その中でも瓦が多く出土しているが、摩滅が非常に著しい。陶磁器も同様に物凄い量の破片が出土しているが、第Ⅲ章で述べたとおり、陶磁器分類をもとに分類し、その破片数を一覧表で記載することとした。氾濫原という遺構の性格から、こ

こでは、最終埋没に近い時期の遺物で珍しい遺物や不明な遺物、陶磁器以外の搬入品などを中心に報告することとした。

須恵器

円面硯（1） 山部径8.6cm。硯面は若干滑らかになっている。脚部が欠損しているため、透かしの状況は確認できない。

大甕（2・3） 大甕の二重口縁である。2の外面には波状沈線が施されている。それ以外の器面は回転ナデ調整されている。3は外面の一部は格子叩きの後に波状沈線を施している。それ以外の端部や内面は回転ナデ調整。

壺e（4・5） 4の外面は叩きのあと半円状の突帯を2条巡らしている。5の外面は叩きのあと三角形の細い突帯を巡らし、回転ナデ調整している。内面は当て具痕を頸部接合時の回転ナデで消している。

鉢（6～8） 口縁部を肥厚させている。内外面とも回転ナデ調整している。6は復元口径22.0cm、内面にヘラ記号のような刻線が入る。7は復元口径23.8cm。内面に煤のような炭化物がうっすら付着している。8は復元口径23.0cm。全て篠窯系。

土師器

小皿a（9～29） 復元口径7.2～10.0cm。底部はヘラ切りのようなものもみられるが、明確に確認できるものは糸切りである。

小皿b(30・31) 小坏との区別は難しい。底部糸切り。30は体部中位で僅かに屈曲している。

坏a（32～36） 復元口径12.0～14.8cm。全体的に摩滅が目立ち、確認できるものは全て底部糸切り。35・36は体部が不自然に屈曲し、水挽きで成形したような感じさえ窺える。

小壺(37) 摩滅が著しく全形を想像するのは難しい。胎土は明橙灰色で精製されている。体部最大径6.1cm。

瓦器

椀c（38・39） 38は体部中位が押し出しによって僅かに肥厚している。内面は滑らかであるが、ミガキの細かい痕跡は残っていない。底部には低い三角形の高台が付く。復元高台径6.2cm。39は内面にミガキcを施し、底部にはやや外開きの安定感のある高台を付ける。復元高台径6.2cm。

須恵質土器

鉢（40～61） 40～46にかけては口縁端部が直口縁もしくは方形に近い形で仕上げられている。44は内面に細かいハケ目、外面に指頭圧痕がみられる。45は片口の鉢。47～58は口縁端部を肥厚させ、三角形状をなし、58のようにさらに端部を内側上方に引き出しているものもある。外面は回転ナデ。内面は回転ナデもしくは斜方向のナデ。59は底部回転糸切り。内面底部は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。60の底部は粘土板そのままの未調整。内面底部ナデ、その他は回転ナデ。61は口縁形態が特殊なもので、内面横方向のナデ、外面は工具によるケズリ。

瓦質土器

鉢（62～65） 62・64は内面に細かいハケ目が施され、外面に指頭圧痕が僅かに残る。65は底部で、内面に粗いハケ目を施している。外面は摩滅し僅かに指頭圧とハケ目が確認できる。

摺鉢（66） 内面をハケ目調整した後摺り目を施している。

風炉[2]（67） 復元口径37.3cm。頸部外面には押し型文が巡らされている。体部には透かしの痕跡が僅かに確認できる。

獣脚（68） ヘラ工具により面取り調整している。胎土は僅かに砂粒を含むが精製されている。色調は茶灰色で、端部にいくほど黒褐色を呈する。

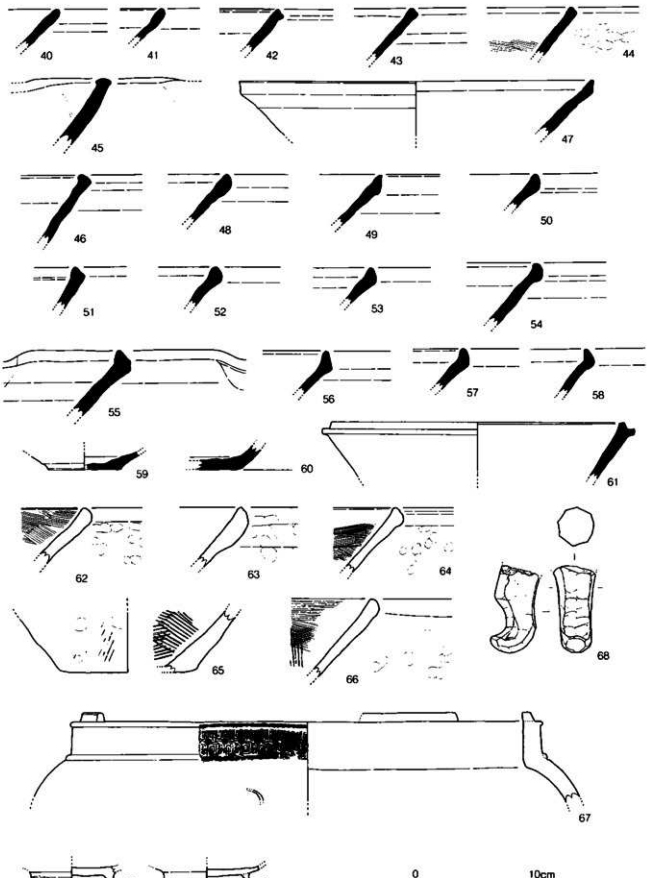


Fig.6　第70次調査淡灰色砂（中央）出土遺物実測図２（1/3）

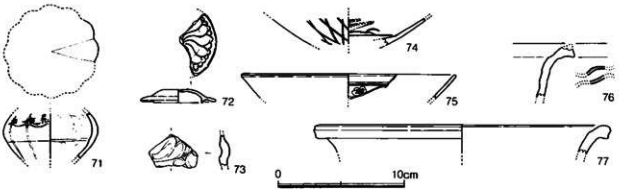


Fig.7　第70次調査淡灰色砂（中央）出土遺物実測図３（1/3）

緑釉陶器

椀×皿（69）　暗黄緑色の釉が薄く残っている。高台内面および畳付には施釉されていない。高台径6.3cmでケズリ出している。

灰釉陶器

皿（70）　灰緑色の釉を厚めに施している。高台は貼り付けで径6.3cm。内面底部は施釉されていない。

白磁

小壺（71）　瓜割型の上下を合わせて作られたもので、体部中位で上下接合している。肩部には押し型文様が施されている。外面は施釉されているが、内面は指先でナデられている。胎土は灰白色で精製されている。釉は乳白色で半透明、釉が十分に融けていないように見受けられる。

合子蓋（72）　径6.0cm。上面には型押しの文様が施されている。胎土は乳白色で精製され、釉は透明のガラス質。

白磁破片（73）　人形の一部か。外面施釉、内面は押型でナデ。胎土はやや茶色味を帯びた乳白色で、やや粗い。釉は黄色味を帯び、剥落が目立つ。

青白磁

椀（74・75）　74は外面にヘラ状工具で縦長格子状の文様を施す。内面もヘラと櫛目によって施文している。釉は淡い灰青色味を帯びて透明である。75は復元口径17.0cm。内面には型押しの文様が施され、口縁端部の釉を拭取っている。

朝鮮系無釉陶器

広口壺（76・77）　76は端部を外反させる。内外面回転ナデ、頸部にヘラで２条の波状文を施す。77は内外面回転ナデ調整。

瓦類

文字瓦（78～81）　格子目に文字を刻み叩いた平瓦。78は「佐」。79は「賀」の左文字。80は「賀茂」。81は「安楽寺」。

平瓦（82・83）　82は格子内に三角形を刻んだもの。83は細い格子に円形の刻み込みがあるもの。

塼（84）　無文で、各面工具による粗いナデ整形が行われている。胎土は２mm前後の白色砂粒を多く含む。還元焼成している。

石製品

石鍋（85）　耳の部分で、内外面とも工具によって削り出した痕跡が残る。口縁平坦部と内面に若干傷が残る。滑石製。

砥石（86）　やや赤味を帯びた茶灰色の扁平石で、一部の面が滑らかであるため砥石として使用された

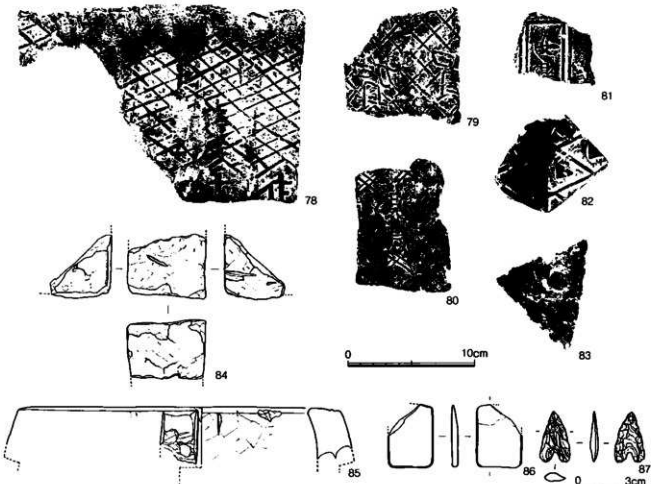


Fig.8　第70次調査淡灰色砂（中央）出土遺物実測図4（1/3）

ものと推測されるが、明確には言い切れない。縦4.9cm、横3.5cm、厚さ0.5cm。

石鏃（87）　縦2.65cm、横1.6cm、厚さ0.4cm。安山岩製。

淡灰色砂（西側）出土遺物（Fig.9、Pla.10）

土師器

小皿a（1～3）　復元口径8.7～9.2cm。

小皿b（4・5）　体部は僅かに丸味を持っている。調整は摩滅し不明。

長沙窯系青磁

壺（6）　内面は回転ナデで施釉されていない。外面は型押しの葡萄文様を貼付けている。釉は埋没環境の影響なのか淡青緑色の付着物が付いているが、基調は黄色で文様の一部に褐釉をかけている。胎土は明茶灰色でキメは粗く粒っぽい。若干白色砂と褐色物質を含む。

中国陶器

壺（7・8）　7は黄褐色～暗緑褐色で部分的に厚く施釉されている。胎土は暗灰色～暗紫色で精製されている。復元口径10.0cm。B群。8は口縁部を丸く外反させたもの。釉は薄く施釉され、暗灰緑色で光沢はない。内面は施釉したものではなく、流れ込んだものとみられる。口縁部で部分的に釉が剥げており重ね焼きの可能性がある。胎土は灰色～茶灰色で、白色砂と黒色物質を含むが精製されている。復元口径10.6cm。B群。

耳壺（9）　耳は欠損しているが縦耳とみられる。釉は明茶色の不透明釉を薄く施す。胎土は茶灰色で白色砂や褐色物質を含むが精製されている。復元口径6.8cm。B群。

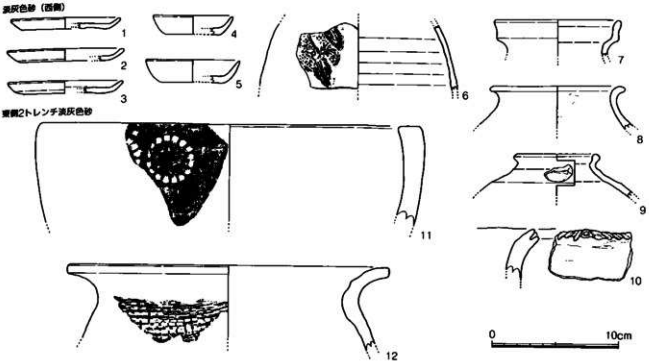


Fig.9　第70次調査淡灰色砂（西側）およびトレンチ淡灰色砂出土遺物実測図（1/3）

縄文土器

鉢（10）　口縁部は僅かに波状になり、その高い所に穿孔があり、それを中心に刻み目を施している。胎土は黒茶色を呈し、2～3mmの砂粒を多く含む。

淡灰色砂（トレンチ）出土遺物（Fig.9）

瓦質土器

火鉢（11）　復元口径29.8cm。僅かに内湾する口縁部近くの外面に花文スタンプが施されている。胎土は黄灰色で1mmほどの砂粒を少量含む。東側2トレンチ出土。

甕（12）　復元口径25.4cm。内面の器面は、凸凹になっている。焼成時にできたものか。外面肩部はなで肩状態で、叩き痕跡が残る。口縁端部はヨコナデ。胎土は白灰色で僅かに砂粒を含み、内外面は暗灰色を呈する。東側3トレンチ出土。

(5) 小結

調査地の北側一帯は調査開始以前の1980年に試掘した所見によって、氾濫原が広がっていたことは確認されていたが（『条坊跡II』1983）、さらに南側に広がっていたことが判明した。氾濫原の埋土である淡灰色砂から、白磁IX類や龍泉窯系青磁III類などF期（13世紀中頃～14世紀初頭前後）の遺物が出土していること、淡灰色砂の上層、つまり表土直下で確認された溝状の掘り込み等から大宰府編年XIX期の土師器の坏bや小皿bが出土しているため、およそ14世紀初頭頃に最終埋没したと推測される。出土する瓦などが著しく摩滅していることから遠方から流されてきたことは間違いなく、この上流に位置する政庁およびその周辺の官衙群、そして観世音寺などの古代大宰府の主要な遺跡からの遺物が流され堆積したものと考えられる。

また、この調査地において、氾濫原埋没後の14世紀以降の建物跡など人々が生活した痕跡は確認できず、14世紀以降耕地などになっていた可能性が考えられる。

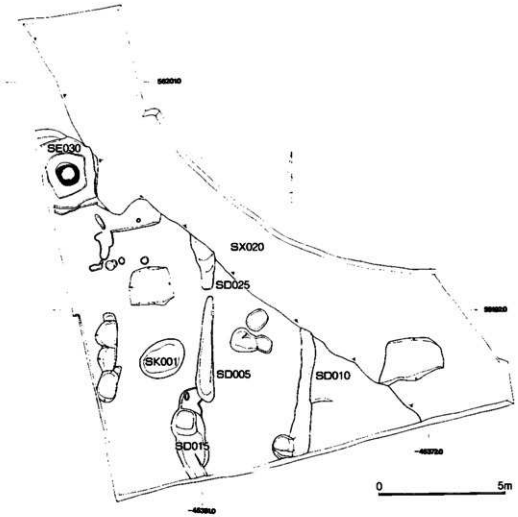


Fig.10　第187次調査遺構全体図（1/150）

2．第187次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市通古賀２丁目404で、当地は銚山猛氏推定条坊復原案の右郭９条５、６坊に位置する。平成８（1996）年５月23日に、都府楼地所から陶山猛、金丸美代子、岩瀬愛子、陶山芳夫、陶山明宣、横田京子所有の土地について、RC４階建の会社事務所の建設計画に先立ち、埋蔵文化財の有無について照会があり、周辺の調査結果から遺跡の存在が確認されているため、発掘調査を行うこととなった。表土剥ぎに先立ち試掘調査を実施し、東半分は氾濫原であったため、遺構が確認された西半分について発掘調査を行った。発掘調査は開発者の費用負担によって1996（平成８）年12月３日から1997（平成９）年１月９日にかけて実施した。調査対象面積1311m²、調査面積173m²を測る。調査は宮崎亮一、狭川真一が行った。

(2) 基本層位

区画整理事業による整地（真砂土）が約0.5m、その下に黒色粘質土の耕作土が約0.1mあり、遺構面を覆うように灰褐色土がみられる。

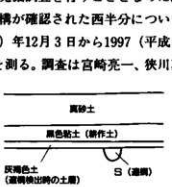


Fig.11　第187次調査基本層位

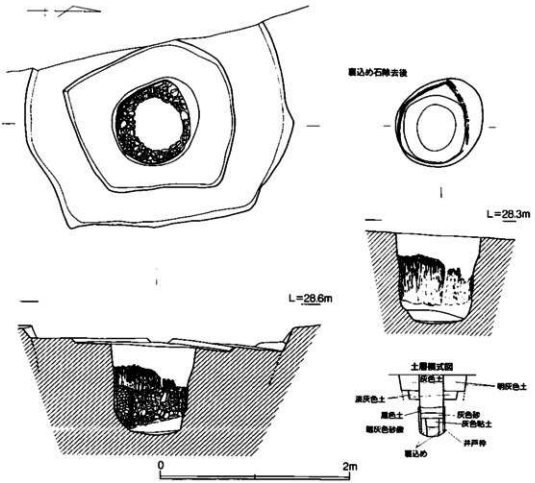


Fig.12　第187次調査SE030遺構実測図（1/40）

(3) 検出遺構

井戸

187SE030 (Fig.12、Pla.3～5)

丸太くり抜きの井戸枠を用いた井戸である。掘り方は南北直径2.85mの不整円形であるが、その中にさらに東西1.56m、南北1.76mの不整円形の掘り方を検出した。掘り方の中央付近に南北0.8m、東西0.88m、深さ1.1mでやや楕円形をした丸太くり抜きの井戸枠がある。井戸枠は内径0.68～0.82m、厚さ0.04mで、深さ0.52mを測る。井戸枠は南側の2/3は残りがよく、北側は辛うじて残っている状態である。

くり抜きの井戸枠は東西2箇所に隙間があり、それを境に北と南では形状が異なることから、丸太を1本そのままくり抜いたものではなく、縦割りにしてくり抜き、南半分と北半分では違う個体を組み合わせたか、もしくは、同一個体でも一部削除して使用したものと考えられる。井戸枠の南側下部には0.07m前後のやや大きめの石があり、その上に井戸枠がのっている状態であるが、北側は井戸枠の残りが悪く不明瞭である。

また、井戸枠内には、井戸底から0.5mの位置から径0.05～0.1m程の川原石を敷き詰め、その敷き詰めた石の中央やや北寄りには南北0.52m、東西0.56mの円形の空間があった。その空間には上層に灰色粘土、その下に暗灰色砂礫層が自然堆積していた。この空間は曲物が置かれていた痕跡と推測され、川原

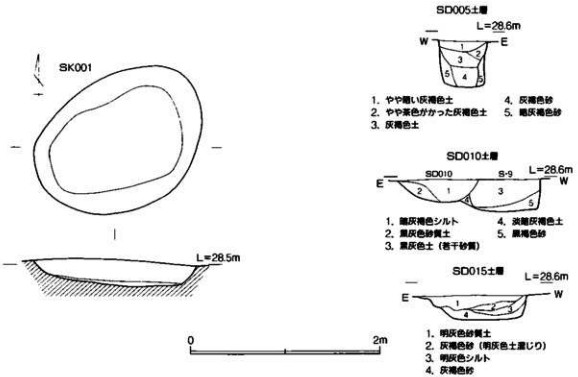


Fig.13　第187次調査SK001および溝土層実測図（1/40）

石は曲物の裏込め石と考えられる。裏込め石と曲物底跡の上には、灰色砂が覆っていたことから、井戸全体が埋没する直前には、曲物等はすでに埋没していたと推測される。

井戸底までの深さは遺構検出面から約1.2mで、現在は湧水していないが、砂利層や砂層を貫いており、当時はこれらの層が湧水層であったと考えられる。

土坑

187SK001（Fig.13）

長軸1.9m、短軸1.4m、深さ0.3mの楕円形を呈している。埋土は灰褐色土である。

溝

187SD005（Fig.13、Pla.6）

長さ4.2m、最大幅0.7m、深さ0.5mを測り、北に向かって幅は狭くなる。埋土は大きく灰褐色土と灰褐色砂の２層に分かれ、上層の灰褐色土に細かく割れた土師器が充満していた。方位はN-3°3′10″-E。

187SD010（Fig.13、Pla.6）

検出長5.1m、最大幅0.8m、深さ0.3mを測る。北側は氾濫原によって切られている。南側は調査区外に続いている。方位はN-3°51′42″-E。埋土は暗灰褐色シルト層の下に黒灰色砂質土の2層である。

187SD015（Fig.13）

検出長3.6m、最大幅1.25m、深さ約0.2mを測る。検出段階で東寄りにぼんやりと埋土の違いが確認できたが、掘り進んでいく限りでは明瞭な違いは確認できなかった。しかし、底面が他と異なり、土坑状の深い部分が確認できたことや遺構の形状から土坑の可能性も考えられる。方位はN-5°30′1″-W。

187SD025

検出長2.2m、最大幅約0.9m、深さ0.3mを測る。北側は氾濫原によって切られている。SD005の延長にあり、連続土坑的な溝と考えられる。方位はN-6°8′48″-W。

その他の遺構

187SX020

周辺の発掘調査から、調査区付近の東側は、御笠川の氾濫原が広がることがわかっていたが、表土剥ぎの段階で試掘したところ予想通り氾濫原が確認できたため、調査は行っていない。遺構残存面からなだらかに段落ちが始まり、氾濫原が広がっている。

(4) 出土遺物

井戸

187SE030灰色土出土遺物（Fig.14、Pla.11）

土師器

小皿c（1・2） 1は口径12.3cm、器高2.1cm、高台径6.6cm。焼成が良好のため内面の不定方向ナデ、外面の回転ナデ調整が明瞭に確認できる。2は口径13.2cm、器高2.6cm、高台径7.8cm。内湾する細い高台が付く。

椀c（3・4） 3は復元高台径8.6cm、低く外開きしている。4は復元口径12.9cm、器高5.0cm、復元高台径9.1cm。体部は内湾しながら立ち上がる。

甕（5） 復元口径15.1cm。体部外面上部はヨコナデ、下部は指頭圧で調整後、二次焼成によって煤が付着している。内面上部は滑らかだが、底部は使用したためか、器面が粗れている。

187SE030黒色土出土遺物（Fig.14、Pla.11）

土師器

坏a（6） 摩滅しているが、底部はヘラ切りか。体部の欠損部分の摩滅も著しいため、小皿の可能性も考えられる。復元底部径6.0cm。

灰釉陶器

長頸壺（7） 頸部付近の破片で、復元頸部径7.2cm。内外面はヨコナデの後、全体的に薄く施釉している。釉調は薄い緑灰色で光沢がある。内外面とも部分的に釉が剥落している。頸部と肩部との境に釉が溜まっている。胎土は目立った砂粒もなく精製されている。

187SE030灰色砂出土遺物（Fig.14）

土師器

鉢（8） 復元口径32.6cm。口縁部の小破片で全形の復元は若干無理があるかもしれない。内外面ともヨコナデ。口縁端部内面に一部黒斑がある。胎土は3～5mm程の砂粒を多く含み粗い。

石製品

平玉石（9） 大きさは2.6cm×1.9cm、厚さ0.4cm。楕円形で全面研磨したとみられ、片面に引っかいたような傷がある。

187SE030灰色粘土出土遺物（Fig.14）

土師器

椀c（10） やや丸味を持った体部に高台が付く。

甕×鉢（11） 口縁端部の小破片で、復元口径35.5cm。端部は強いヨコナデで、外反している。端部内面の器面がやや粗れている。

187SE030暗灰色砂礫出土遺物（Fig.14、Pla.11）

土師器

坏a（12・13） 12は復元底部径7.2cm。外面底部に板状圧痕が残る。13は体部と底部の境に段が付いて

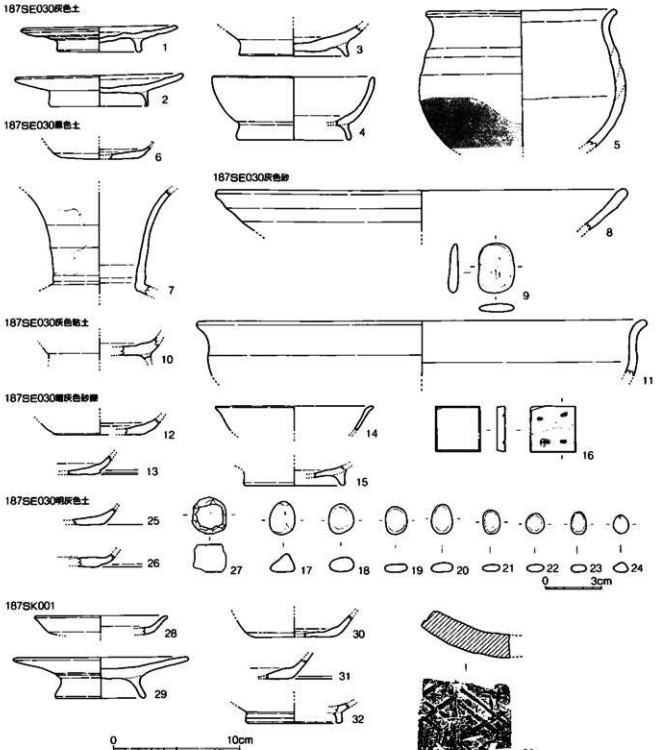


Fig.14　第187次調査SE030・SK001出土遺物実測図（1/3、9・17～24は1/2）

いる。内面ナデ、底部外面はヘラ切り未調整。

椀（14）　復元口径12.4cm。口縁部が若干肥厚し僅かに外反する。

椀c（15）　復元高台径8.1cm。内面ナデ。

石製品

石帯巡方（16） 3.5×3.6cm、厚さ0.65cm。色調は濃暗緑色。全面研磨しているが、裏面には自然面が一部残っている。裏面の周縁は面取りしている。裏面に紐穴が4ヶ所開けられている。

平玉石（17～24） 大きさが1.0～1.7cm。色調は淡灰色、薄小豆色、白色、薄青緑色、暗緑青色などである。色調と大きさともに不均等であるが、すべて研磨されている。

187SE030明灰色土出土遺物（Fig.14）

土師器

坏a（25・26） 底部の小破片で、底部ヘラ切り。

瓦加工品

瓦玉（27） 2.7×2.9cm、厚さ2.2cm。色調は薄い灰色を呈する。

土坑

187SK001出土遺物（Fig.14）

土師器

小皿a（28） 復元口径10.6cm。体部中位で若干屈曲している。

小皿c（29） 復元口径13.8cm、器高3.2cm、復元高台径7.1cm。高台は高く外開き。胎土は灰橙色で、0.5mm程の白色砂粒と赤茶粒を少量含むが、精製されている。底部ヘラ切り未調整。

坏a（30・31） 両方とも底部と体部との境は僅かに丸味を帯びる。30は復元底部径6.4cm。底部外面に板状圧痕が残る。31は底部ヘラ切り未調整。

緑釉陶器

椀c（32） 復元高台径7.6cm。釉は光沢のある緑色で透明感があり、斑点状に濃い部分がある。胎土は灰白色の土師質で精製されている。

瓦類

平瓦（33） 格子叩きに「井」の文字がみられる。欠損しているが「平井」と刻された文字の一部である。

溝

187SD005出土遺物（Fig.15、Pla.11）

土師器

小皿a（1～17） 復元口径8.7～11.1cm、平均9.76cm、器高0.8～1.8cm、復元底径6.6～8.4cm。すべて底部ヘラ切り調整。

椀c（18、19） 18は復元高台径6.9cm。19は内面ヨコナデ、その他は摩滅。体部に丸味を持ち、外開きの細い高台を付ける。復元高台径7.5cm。

丸底坏（20） 復元口径16.1cm。外面はヨコナデ、その他は摩滅。

土製品

鞴羽口（21） 復元直径6.0cm、中央に直径2.5cmほどの空洞を開けている。空洞は棒のような円柱の型に粘土を巻いて作ったとみられ、空洞は型をはずしただけで、ナデなどは施していない。加熱によって先端部に行くほど橙色、明灰色、暗灰色と変色し、もろくなっている。

187SD010出土遺物（Fig.15）

土師器

小皿a（22） 復元口径10.8cm、器高1.8cm、復元底径6.4cm。体部中位で僅かに屈曲している。底部外面に板状圧痕が僅かに残る。

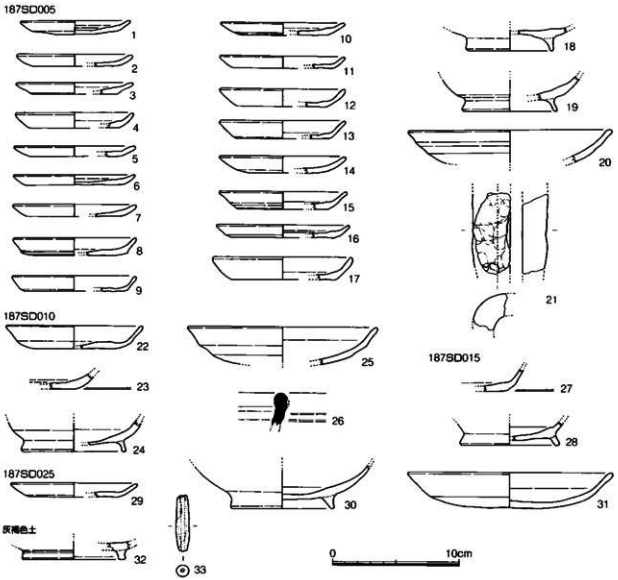


Fig.15　第187次調査溝及び灰褐色土出土遺物実測図（1/3）

坏a（23）　体部と底部境はやや丸味を帯びる。底部ヘラ切り。

椀c（24）　復元高台径8.2cm。体部より底部が薄く仕上げられている。細い高台を付ける。

丸底坏（25）　復元口径15.0cm。内面はやや滑らかになっているため、ミガキbを施していたとみられる。外面底部は指頭圧痕が残り凸凹している。

須恵質土器

鉢（26）　口縁端部が玉縁状になっている。焼成は悪く、灰白色の土師質になっている。

187SD015出土遺物（Fig.15）

土師器

坏a（27）　やや不明瞭だが、底部ヘラ切りとみられる。

椀c（28）　復元高台径7.8cm。底部の外側に外開きの高台を付ける。

187SD025出土遺物（Fig.15）

土師器

小皿a（29） 復元口径10.0cm、器高1.1cm、底径6.8cm。

椀c（30） 体部下半は若干凹凸があり、指頭圧痕とみられる。三角形の高台が付いている。復元高台径8.2cm。

丸底坏（31） 復元口径16.2cm、器高2.8cm。全面摩滅しているが、外面下半部には押し出しの際の指頭圧のような凸凹が僅かにみられる。

その他の遺構

灰褐色土出土遺物（Fig.15）

緑釉陶器

椀c（32） 復元高台径8.2cm。釉は薄い緑色で透明感があって光沢がある。部分的に斑点状に緑色が濃い所がある。全面施釉されているが、高台畳付は剥落したとみられる。内面の釉も部分的に剥落している。胎土は灰白色の土師質で、精製されている。

土製品

土錘（33） 長さ4.4cm、径1.0cm。中央に径0.02cmの孔が開けられている。

(5) 小結

各遺構の時期と若干の所見についてまとめると以下のとおりである。

187SE030

九太くり抜きの井戸枠を用いた井戸。この調査区の北西200mで行った第17次調査でもくり抜きの井戸枠が確認されている。また、曲物の周囲を川原石で敷き詰めるという珍しい方法で作られている。条坊内で見つかる他の井戸に比べ、出土する遺物量が少ないが、それらの遺物から最終埋没時期は土師器の小皿aが出現する直前のⅧ期頃と推測される。

187SK001

遺物量が少ないため、時期決定は難しいが、最終埋没時期はおよそ平安時代中期と推測される。

187SD005・015・025

SD005とSD025は僅かに分断されているが、一連の溝とみられる。埋没時期も同じくXI・XII期頃と推測される。SD015に関しては、土坑とも言える溝であるが、SD005の延長上にあるため一連の溝と考える。SD010と平行するため2条の溝が南北道路の側溝で、その間約3.5mが道路と推測される。

187SD010

遺物量が少ないため、時期決定は難しいが、最終埋没時期はおよそX・XI期頃と推測される。南北道路の東側溝と推測される。

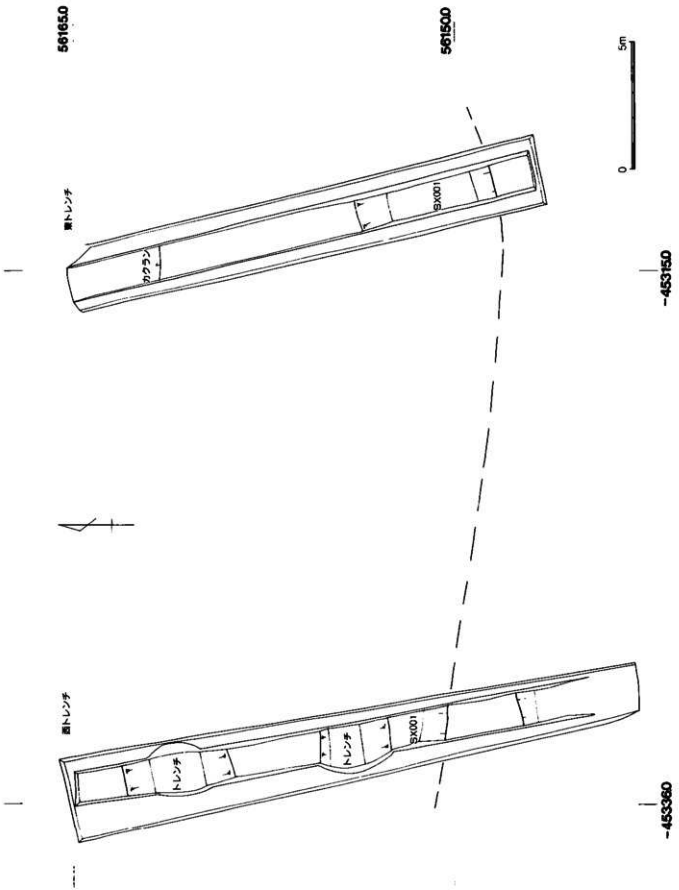


Fig.16　第188次調査遺構全体図（1/150）

3．第188次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市通古賀５丁目409-1他で、右郭９条５坊に位置する。1996（平成８）年８月12日に永田建設㈱から陶山馨氏所有の土地について、建物建築に先立ち、埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。1996（平成８）年10月29日に試掘調査を行い、東西に走る溝状の遺構が確認された。その後、事務所または倉庫用地にする予定になり、溝状遺構の性格を把握するため、1996（平成８）年12月３日から12月22日にかけて、道路を挟んだ大宰府条坊跡第187次調査と平行して発掘調査を実施した。調査は宮崎亮一が担当した。調査対象面積900m²、調査面積63m²を測る。

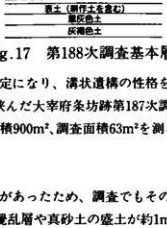


Fig.17　第188次調査基本層位

(2) 基本層位

現在は田圃が広がっているが、以前はこの調査地を斜めに横切る道路があったため、調査でもその名残である配管等が見つかり、調査の障害となった。耕作土や道路構築の攪乱層や真砂土の盛土が約1m前後あり、それを除去したところが遺構面になる。

(3) 検出遺構

188SX001 (Fig.18、Pla.7・8)

調査対象地に、東西２本のトレンチを設定し確認調査を行った。

西トレンチでは南端の立ち上がりとその北側に広がる堆積層が確認された。堆積層は大きく３層（上位から黒褐色系土層、灰色系の土砂、砂礫層）に分かれ、その差異は明瞭である。遺物は全ての土層から出土し、特に黒褐色系土層からは多量の遺物が出土している。この黒褐色系土層は幅5.6m、深さ0.4mで南端は急な立ち上がりを示しているが、北端は削平されている。灰色系の土砂層は砂層、シルト層、砂礫層等が交互に入り組み不自然な堆積も見られるなど、流水があったことを物語っている。これらの層も南側で立ち上がっている。砂礫層については一部深く掘り下げ確認したが、底面は検出されてない。この堆積は灰色系の土砂と同じく土砂堆積によってできたものと思われ、重い砂礫が下層に堆積してい

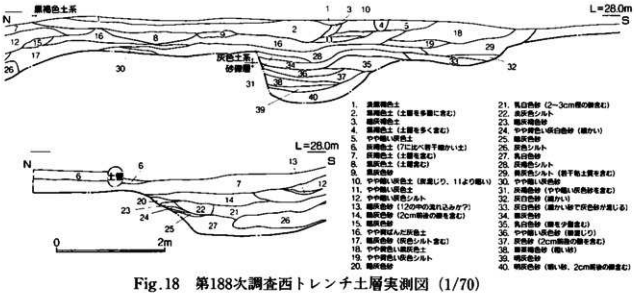


Fig.18　第188次調査西トレンチ土層実測図（1/70）

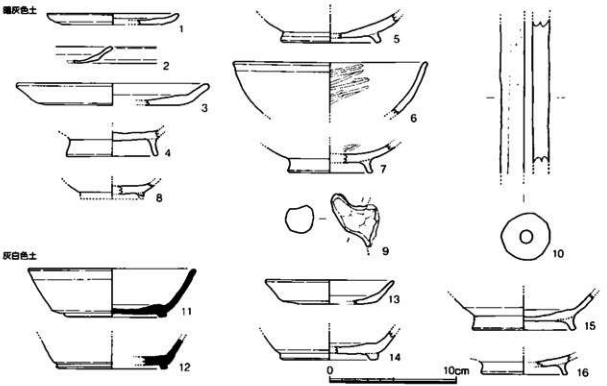


Fig.19　第188次調査西トレンチ出土遺物実測図（1/3）

るものと見られる。下層ほど鉄分が堆積したような茶褐色砂礫層が見られる。東トレンチでも南端の立ち上がりが確認され、西トレンチ同様の所見が得られた。

(4) 出土遺物

188SX001出土遺物

西トレンチ

暗灰色土出土遺物（Fig.19）

出土する遺物のうち須恵器と土師器が5：5の割合で出土する。瓦の出土数は少ない。

土師器

小皿a（1・2）　1は復元口径10.4cm、器高0.9cm、復元底径8.0cm。底部ヘラ切り、板状圧痕残る。2は底部に丸味があって、体部中位に屈曲があるようにみえる。

皿a（3）　復元口径15.2cm、器高1.7cm、復元底径12.0cm。底部ヘラ切り。

椀c（4）　復元高台径7.2cm。細い高台を付ける。

把手（9）　若干小さめの把手で、指頭圧の痕跡が明瞭に残る。

器台（10）　脚部で径3.6～3.8cm。縦方向にヘラケズリを行う。

黒色土器

椀c（5～7）　5は復元底径8.0cm。内面はミガキc、体部外面の下半は回転ヘラケズリを行う。底部外面に板状圧痕が残る。A類。6は復元口径15.4cm。内面にミガキc、口縁端部は僅かに外反する。B類。7は復元底径6.7cm。内面はミガキcを行う。B類。

緑釉陶器

椀c（8）　釉は淡い緑色を呈し、部分的に剥落している。胎土は灰白色の土師質で精製されている。

灰白色土出土遺物（Fig.19）

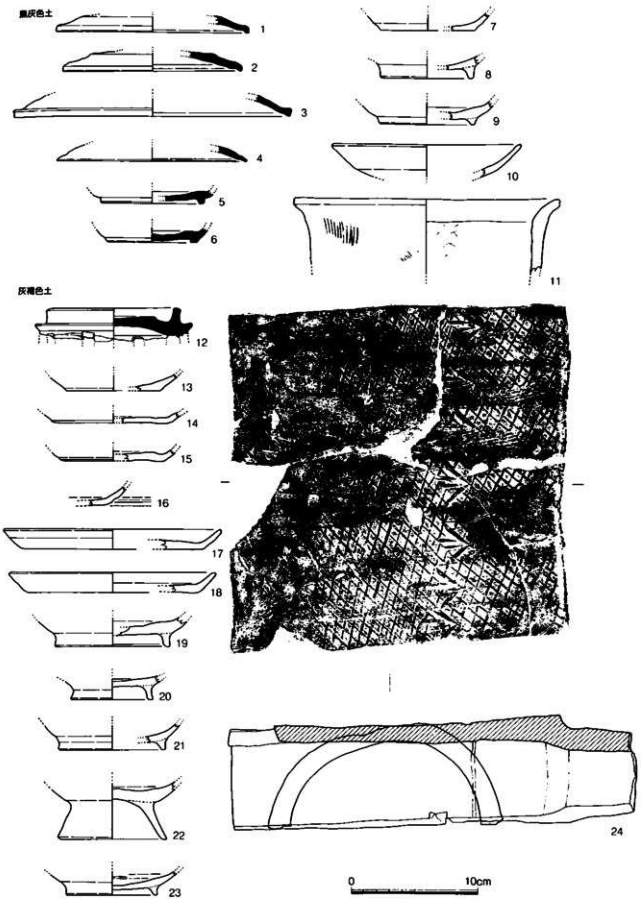


Fig.20　第188次調査東トレンチ出土遺物実測図（1/3）

須恵器

坏c（11・12） 11は復元口径13.2cm、器高3.9cm、高台径8.1cm。低い高台を付ける。12は僅かに外開きの低い高台が付く。高台径8.7cm。

土師器

坏a（13） 復元口径10.2cm、器高1.9cm、復元底径7.6cm。内面底部は不定方向のナデ、外面はヨコナデ、底部はヘラ切り。

椀c（14～16） 14は復元高台径7.6cm。台形状のがっちりした高台を付ける。外面底部はヘラ切り。15は高台径8.2cm、内面底部は不定方向のナデ、その他はヨコナデ。外面底部は回転ヘラケズリ後、ヨコナデ。16は復元高台径6.8cm。

東トレンチ

黒灰色土出土遺物（Fig.20）

須恵器

蓋3（1～3） 1は復元口径15.2cm。内外面とも回転ナデ。2は復元口径14.1cm。外面上半部は回転ヘラケズリ、内面の上半部は不定方向のナデ、それ以外は回転ナデ。3は復元口径22.0cm。口縁端部は三角形を呈する。内外面とも回転ナデ。

蓋4（4） 復元口径15.0cm。口縁端部は沈線状の段差が巡る。内外面とも回転ナデ。

坏c（5・6） 5は復元高台径8.2cm、高台は低いが僅かに外開き。6は復元高台径8.2cm、底部と体部の境に近いところに低い台形状の高台を付ける。両方とも内面は不定方向のナデ、外面底部は回転ヘラ切り。

土師器

坏a（7） 底部と体部の境はシャープである。底部回転ヘラ切り。復元底径7.5cm。

椀c（8・9） 8は復元高台径7.4cm。9は復元高台径7.6cm。高台は三角形に近い低い高台が付く。内面不定方向のナデ。

丸底坏（10） 復元口径15.0cm。

甕（11） 口縁部はヨコナデ、体部外面縦ハケ、内面は手持ちのヘラケズリ。復元口径21.0cm。

灰褐色土出土遺物（Fig.20、Pla.12）

須恵器

円面硯（12） 山部の径10.6cm、海部外径12.4cm。脚部に幅1cm前後の方形の透かし孔がある。

土師器

坏a（13～16） 13は復元底径7.4cm。底部と体部の境はややシャープである。14から16は底部と体部の境にやや丸味がある。14は復元底径9.0cm。15は復元底径8.3cm。

皿a（17・18） 両方とも器面は摩滅している。17は復元口径17.3cm、器高1.6cm、復元底径14.4cm。底部ヘラ切り。18は復元口径16.4cm、器高1.6cm、復元底径13.3cm。

椀c（19～21） 19は復元高台径9.1cm。20は復元高台径6.4cm、内面ナデ、外面底部はヘラ切り未調整。21は復元高台径8.4cm、やや低い高台を付ける。

脚付椀（22） 高台径8.6cm、直に外開きした高さ3.0cmの高台が付く。内面は回転ナデ。

黒色土器

椀c（23） 高台径7.2cmの低い高台を付ける。全体的に摩滅していて、内面のミガキも断続的に確認できる。

瓦類

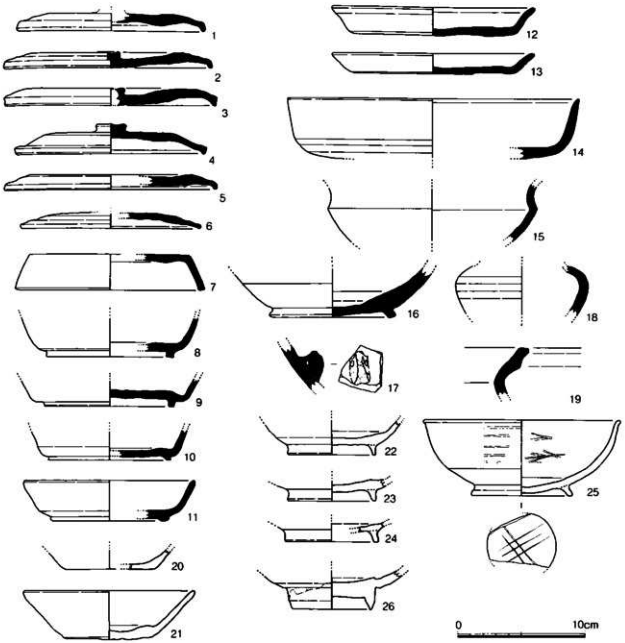


Fig.21　第188次調査表土出土遺物実測図（1/3）

丸瓦（24）　僅かに欠損しているが、ほぼ完形。長さ31.8cm、幅18.6cm。格子の叩きに混じって７個の「介」の文字もみることができる。

表土出土遺物（Fig.21）

須恵器

蓋３（１～６）　復元口径14.3～17.0cm。体部外面の天井部の一部が回転ヘラケズリ、内面は不定方向のナデ。その他は回転ナデ。

蓋（７）　小片だが、端部が平坦に仕上げられているため蓋と考えた。天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は不定方向のナデ。その他は回転ナデ。復元口径15.0cm、器高2.8cm。

坏c（８～11）　復元高台径9.3～10.2cm。高台は方形の低い高台を付ける。内面底部は不定方向のナデ、体部は回転ナデ調整されている。９の底部は回転ヘラ切り。10は底部外面はナデ調整されている。

11はつぶれたような低い高台を付ける。

皿a（12・13）　内面底部は不定方向のナデ、体部は回転ナデ調整されている。12は口縁部が若干外反する。復元口径16.0cm、器高2.2cm。13は復元口径16.0cm、器高1.6cm。

高坏a（14）　坏部の深い高坏で、復元口径23.0cm。坏部の外面底部は回転ヘラケズリ、体部は回転ナデ、内面底部の器面は滑らかである。

鉢（15）　全形が想像しがたいが、浅い鉢のようなものと推測した。外面屈曲部より下は回転ヘラケズリ、それ以外は内外面とも回転ナデ。

壺（16・17）　16は底部で、方形のやや外開きの小さい高台が付く。復元高台径10.0cm。内面底部は不定方向のナデ、体部は回転ナデ。体部外面の底部近くは回転ヘラケズリ、外面底部はナデ調整している。17は壺の耳部分である。工具によって成形され、径0.3cmほどの孔が開いている。

小壺（18）　体部の最大径は10.4cm。外面中位から下は回転ヘラケズリとみられる。そのほか内外面とも回転ナデ。

甕（19）　二重口縁部で、小片のため大きさは復元しがたい。内外面とも回転ナデ。

土師器

坏a（20・21）　20は復元底径7.0cm、体部と底部との境が僅かに丸味を帯びる。21は内面底部が不定方向のナデ、外面底部は回転ヘラケズリし、板状圧痕を残す。その他はヨコナデ。色調は橙灰色を呈している。復元口径13.6cm。

椀c（22～24）　復元高台径7.0～7.4cm。低い高台を付ける。色調は黄灰色を呈する。

黒色土器

椀c（25）　口縁端部が玉縁状に僅かに外反する。外面底部にはヘラ記号がある。内外面とも摩滅しているが、僅かにミガキが確認でき、外面底部付近は回転ヘラケズリのような痕跡を残す。復元口径15.6cm、器高6.0cm。

白磁

椀（26）　V類。

試掘調査出土遺物（Fig.22、Pla.12）

須恵器

皿a（1）　復元口径15.0cm。内面は研磨され、墨痕のようなものも確認でき、硯として利用されていたとみられる

坏c（2）　復元口径13.2cm、器高4.3cm。底部の内側に高台が付く。

大坏c（3）　復元口径24.2cm、器高4.0cm。内面には回転ナデの痕跡が明瞭に残る。外面も回転ナデで、器面が滑らかになっている。方形の低い高台が付く。

高坏（4・5）　4は坏部で端部が僅かに外反する。内面は不定方向のナデ、外面底部は回転ヘラケズリ。その他は回転ナデ。復元口径24.0cm。5は坏部内面には円形に重ね焼きをしたような痕跡が確認できる。脚の接続部分はひび割れがみられる。

壺（6・7）　6は内面底部に粗い不定方向のナデが施されている。回転ヘラケズリを施した底部には外開きのがっちりとした高台が付く。復元高台径14.5cm。7は内面底部が不定方向のナデ、外面下半が僅かにヘラケズリであるがその他は回転ナデ。全体的の丁寧なつくりである。高台に板状圧痕が残る。

土師器

坏a（8）　内面底部は不定方向のナデ、底部は回転ヘラ切り。体部と底部の境はシャープで、復元底径7.8cm。

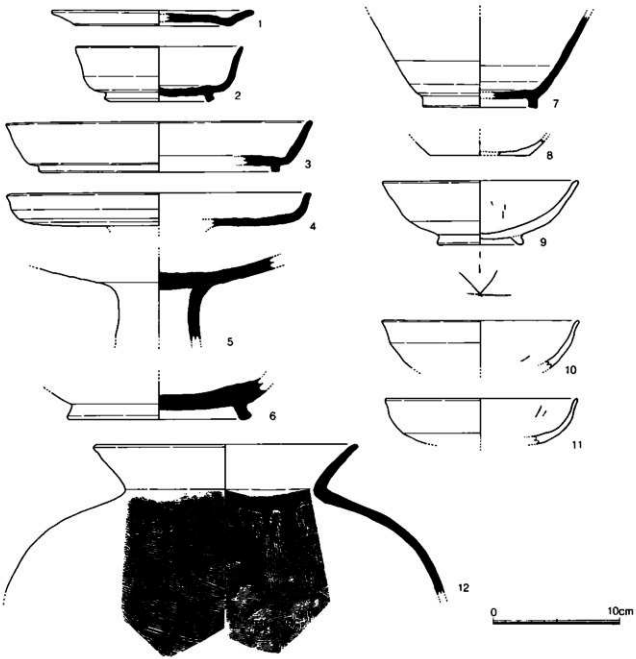


Fig.22　第188次調査試掘出土遺物実測図（1/3）

丸底坏c（9）　復元口径15.4cm。内面にミガキb、外面中位が底部押し出しによって僅かに屈曲している。太い高台が付く。外面底部にヘラ記号がある。

丸底坏（10・11）　10は復元口径15.6cm。11は復元口径15.2cm。ともに摩滅が著しいが体部中位で僅かに屈曲し、内面にミガキbを施す。

須恵質土器

壺（12）　口縁部は内外面とも回転ナデ、体部外面は細かい刷毛目状の叩きが施され、内面も細かい刷毛目状の当て具痕跡が円を描いている。口径20.8cm。須恵器の甕の可能性も考えられる。

(5) 小結

今回の調査のきっかけとなった溝状遺構について、試掘調査では南側の肩から約16mで立ち上がりを確認しているが、今回は配管の埋没等で不十分な調査条件ではあったため、北側の立ち上がりを確認することができなかった。時期についてはトレンチの壁が崩壊する悪条件の調査であったため、遺物の混ざり込みが全くないとは言い難く、正確な時期を言及することは難しい。出土量は少ないながらもX・XI期前後の遺物があるため、最終埋没はその頃とみられが、全体的な遺物量からすると平安時代中期頃には殆ど埋没していた可能性が高い。

井上信正条坊案では、この調査地内を右郭十条の東西路が通ると推定されている。今回確認した黒褐色系土層と灰色系の土砂層の立ち上がりが、条路に関係するものなのかもしれない。しかし、これらの落ち込みの堆積状況や現場近くまで氾濫原が広がっていることを考えると、計画的な大溝なのか、溝が氾濫原に押し流されたものか、氾濫原の立ち上がりなのか、それらを決定するには条件が乏しく、将来の調査を待たなければならない。

V、調査まとめ

今回の調査した3地点のうち条坊関連遺構は第187次調査の2条の溝と第188次調査の段落ちである。条坊関連遺構の大宰府政庁南門および中軸線を基準にした距離はTab.1のとおりである。条坊復元案のうち第187次調査の道路が鏡山猛案（註1）・井上信正案（註2）の右郭六坊の南北道路、第188次調査の段落ちは井上信正案の十条と合致する。

この調査地周辺で確認された条坊関連遺構については『条坊IX』で報告されているが、これらの溝の位置関係はFig.23のとおりである。それぞれ埋没時期が若干異なるため全く同一時期のものとは言えないが、側溝埋没時期が近い第187次調査の南北道路痕跡と第141次調査の南北道路痕跡は、道路間の距離が81.5mであることから、井上氏が指摘するように坊路である可能性が考えられる。また、第87・118次調査の南北道路が、第187次調査南北道路から38.9mとほぼ中間に位置しているため、一条坊内を2分割した区割りの可能性があり、井上氏や第199次調査（註3）でも指摘されているように、条坊一区画内の分割した区割りの存在を検討する上で貴重な所見を得ることができた。

また、第188次調査のきっかけとなった溝状遺構について、試掘調査では南側の肩から約16m程で立ち上がりを確認しているが、今回は埋設配管に当たるなど十分な調査ができず、北側の立ち上がりを確認することができなかった。調査時点では砂礫の堆積状態から、従来から言われている御笠川の氾濫原の一部ではないかと考えていた。しかし、氾濫原である第70次調査で出土した平安時代後期頃の遺物量に対し、第188次調査で出土した同時期の遺物量が極めて少ない。このことはこの近距離でありながら、それぞれの堆積層が異なる時期のものであることを示すと共にその性格も異なることを予見している。井上条坊案では、右郭十条の東西路の推定ラインと合致していることから、第188次調査のSX001は条坊の東西区割りに関係する遺構の可能性も考えられる。

今回のそれぞれの調査範囲が狭いため、不明な点が多い。条坊痕跡もその性格がそれぞれ異なる可能性があり、各復元案と合致したからといって、その案で確定するものではない。よって、この周辺一帯は氾濫原が広がるため、遺構の残存状態は良いとは言えないが、今回の問題点は将来の調査で解明していかなければいけない。

註1、鏡山猛『大宰府都城の研究』風間書房　1968

2、井上信正「大宰府条坊の区割りについて」『条里制研究』第13号　1997
井上信正「大宰府の街区割りと街区成立についての予察」『条里制・古代都市研究通巻17号』2001
3、太宰府市教委『大宰府条坊跡20』太宰府市の文化財第60集　2002

Tab.1　条坊関連遺構任意中点座標値

第187次調査

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向 (m)	Y方向 (m)	
SD005	検出北端中心	56192.00	-45380.72	-522.258	-554.792	N-3° 3′ 10″ -E
	検出南端中心	56189.00	-45380.88	-525.257	-554.762	
SD010	検出北端中心	56191.00	-45376.83	-523.219	-550.692	N-3° 51′ 42″ -E
	検出南端中心	56187.00	-45377.10	-527.226	-551.572	
SD015	検出北端中心	56188.30	-45381.50	-525.917	-550.735	N-5° 30′ 1″ -W
	検出南端中心	56185.60	-45381.24	-528.662	-555.248	
SD025	検出北端中心	56194.30	-45380.92	-519.960	-555.015	N-6° 8′ 48″ -W
	検出南端中心	56193.00	-45380.78	-521.258	-554.862	

第188次調査

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向 (m)	Y方向 (m)	
SX001	灰色系土砂南端(西トレンチ)	56150.03	-45333.00	-563.748	-506.654	N-4° 48′ 6″ -N
	灰色系土砂南端(東トレンチ)	56148.35	-45313.00	-565.228	-486.638	—
	黒褐色土層 (西トレンチ)	56153.90	-45332.80	-559.876	-506.493	

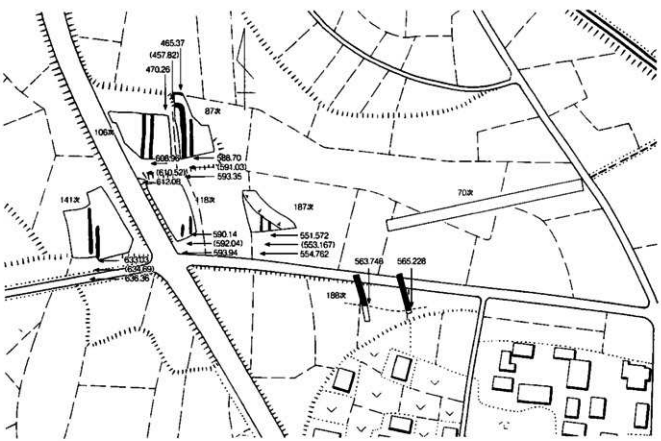


Fig.23　条坊関連遺構位置図 (1/1800)　距離単位(m)　※地図は昭和23年

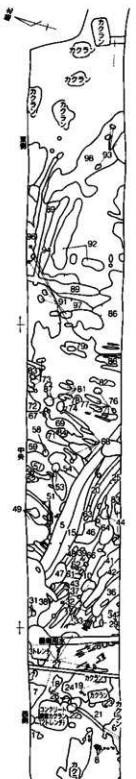


Fig.24　第70次調査略測図

Tab.2　大宰府条坊跡第70次調査　遺構番号台帳

S-番号	遺構番号	種別	時期	地区
1		穴ぼみ　青灰色土		西側
2		穴ぼみ　青灰色土		西側
3		ピット　青灰色土		西側
4		小溝　青灰色土		西側
5		畝　青灰色土		中央
6		穴ぼみ　黄青色土		西側
7		穴ぼみ（しまりは西側ち）　青灰色土		西側
8		ピット群　青灰色土		西側
9		穴ぼみ　青灰色土		西側
10		畝　青灰色土		中央
11		穴ぼみ　青灰色土		西側
12		棚状穴ぼみ　青灰色土		西側
13		穴ぼみ群　青灰色土		西側
14		穴ぼみ　青灰色土		西側
15		畝　暗黄黄色土		中央
16		穴ぼみ群　青灰色土		西側
17		棚状穴ぼみ　青灰色土		西側
18		棚状穴ぼみ　青灰色土		西側
19		穴ぼみ群　黄青色土		西側
20		畝　青灰色土		中央
21		小溝　青灰色土		西側
22		穴ぼみ　青灰色土		西側
23		穴ぼみ　青灰色土		西側
24		穴ぼみ　青灰色土		西側
25		畝　青灰色土		西側
26		穴ぼみ群　S-26～S-22, 24　青灰色土		西側
27		穴ぼみ群　青灰色土		西側
28		穴ぼみ　青灰色土		西側
29		穴ぼみ　黄青色土		中央
30		畝　暗黄灰色土		中央
31		穴ぼみ群　明黄色砂		中央
32		穴ぼみ群　明黄色砂		中央
33		小穴群　明黄色砂		中央
34		穴ぼみ　青灰色土		中央
35		棚状穴ぼみ　明黄色砂		中央
37		穴ぼみ群　青灰色土		中央
38		穴ぼみ　青灰色土		中央
39		穴ぼみ　青灰色土		中央
41		棚状穴ぼみ　明黄色砂		中央
42		棚状穴ぼみ　明黄色砂		中央
43		穴ぼみ群　青灰色土		中央
44		穴ぼみ群　明黄色砂		中央
45		穴ぼみ　瓦を含む青灰色土		中央
47		穴ぼみ　瓦を含む青灰色土		中央
48		穴ぼみ　青灰色土		中央
49		穴ぼみ群　青灰色土		中央
51		穴ぼみ群　青灰色土		中央
52		穴ぼみ　青灰色土		中央
53		穴ぼみ群　青灰色土		中央
54		穴ぼみ　青灰色土		中央
56		穴ぼみ　青灰色土		中央
57		穴ぼみ　青灰色土		中央
58		穴ぼみ　黄青色土		中央
59		穴ぼみ　青灰色土		中央
61		穴ぼみ　瓦を含む青灰色土		中央
62		穴ぼみ群　瓦を含む青灰色土		中央
63		穴ぼみ　青灰色土		中央
64		穴ぼみ　青灰色土		中央
66		穴ぼみ　青灰色土		中央
67		穴ぼみ群　明黄色砂		中央
68		穴ぼみ群　青灰色土		中央
69		穴ぼみ　青灰色土		中央
71		穴ぼみ　青灰色土		中央
72		穴ぼみ群　黄青色土		中央
73		穴ぼみ群　青灰色土		中央
74		穴ぼみ群　青灰色土		中央
76		穴ぼみ群　青灰色土		中央
77		穴ぼみ　青灰色土		中央
78		穴ぼみ　青灰色土		中央
79		穴ぼみ　青灰色土		中央
81		穴ぼみ群　青灰色土		中央
82		穴ぼみ　青灰色土		中央
83		穴ぼみ　黄青色土		中央
84		穴ぼみ　青灰色土		中央
85		穴ぼみ　青灰色土		中央・東
87		穴ぼみ　青灰色土		中央・東
88		穴ぼみ　青灰色土		中央・東
89		畝　1平群　黄青色土		東
91		穴ぼみ群　黄青色土		東
92		穴ぼみ群　青灰色土		東
93		穴ぼみ群　青灰色土		東
94		穴ぼみ　青灰色土		東
96		穴ぼみ群　青灰色土		東
97		穴ぼみ　青灰色土		東
98		穴ぼみ　瓦を多く含む青灰色砂		東

Tab.3 大宰府条坊跡第70次調査 遺構一覧表

S-1

規　　名	掘建
上　　部	掘ﾍﾟ、柱

S-2

規　　名	掘建片
上　　部	掘建片
付	掘建建片(1)

S-3

上　　部	掘建片
関　係　物	掘建片

S-4

規　　名	掘建3
上　　部	掘建×柱、柱片
関　係　物	掘建片

S-5

規　　名	掘ﾍﾟ、柱
上　　部	掘ﾍﾟ、大抜ﾍﾟ、柱、柱片
関　係　物	掘建
関　係　建	掘建片
建 築 様 式 者	掘物：1(1)
者	掘物者(1)
付	掘物：V(1)(1)
丸	掘平丸（掘片）

S-6

規　　名	掘建片
上　　部	掘物ﾍﾟ、柱片
付	掘物：V 1(1)、V(1)(1)

S-7

規　　名	掘建
上　　部	掘ﾍﾟ、小柱a、柱ﾍﾟ
丸	掘平丸（掘片）、柱片

S-8

規　　名	掘建片
上　　部	掘ﾍﾟ、柱、柱片

S-9

規　　名	掘ﾍﾟ、柱2、柱、柱ﾍﾟ？
上　　部	掘ﾍﾟ、小柱a、柱片
上 部 質 上	掘建物
建　築　建	掘建片
付	掘建片(2)
丸	掘平丸
石　　製	品不明

S-10

規　　名	掘ﾍﾟ、柱
上　　部	掘ﾍﾟ、ﾍﾟ
建 築 様 式 者	掘物：11=a(1)
付	掘物：掘建柱片(1)、柱 11-1(1)、柱片
関　係　物	掘物？、柱片
他　人　建　築	掘掘建柱他掘物
丸	掘平丸（柱片）、丸丸

S-11

規　　名	掘ﾍﾟ、ﾍﾟ、柱3、柱
上　　部	掘小柱a、柱×柱、柱片
規 名 質 上	掘物（掘建柱？）
付	掘物：V(1)(1)
関　係　物	掘柱片
関　係　建	掘柱片
他　人　建　築	掘掘建柱他掘建

S-12

規　　名	掘ﾍﾟ、柱3、柱
上　　部	掘ﾍﾟ、柱片
丸	掘柱片
石　　製	品平丸石

S-13

上　　部	掘柱片

S-14

規　　名	掘柱片
上　　部	掘柱片
上 部 質 上	掘物
付	掘柱片(1)
関　係　建	掘柱片
上　　部	品焼土塊

S-15

規　　名	掘ﾍﾟ、柱3、柱
上　　部	掘ﾍﾟ、ﾍﾟ、小柱a、柱
規 定 質 者 者	掘建：1(1)
関　係　建	掘物
丸	掘平丸、柱片

S-16

上　　部	掘ﾍﾟ、柱片
付	掘物：V-1(1)
関　係　物	掘柱片

S-17

関　係　建	掘物

S-18

規　　名	掘柱片
上　　部	掘ﾍﾟ、小柱a、柱、柱片
規 色 上 部 質	掘建片

S-19

規　　名	掘ﾍﾟ、柱、柱片
上　　部	掘ﾍﾟ、柱片
付	掘柱片(1)

S-20

規　　名	掘ﾍﾟ、柱、柱片
上　　部	掘ﾍﾟ、ﾍﾟ、小柱a、柱×柱、柱片
付	掘物：V(1)(1)、柱：1(1)
関　係　物	掘土塊
丸	掘丸丸（物文）、平丸（柱片）

S-21

規　　名	掘ﾍﾟ、柱片
上　　部	掘ﾍﾟ、柱片

S-22

規　　名	掘ﾍﾟ、柱
上　　部	掘物ﾍﾟ、柱片
付	掘柱片(1)
丸	掘丸ﾍﾟ、柱片

S-23

規　　名	掘ﾍﾟ、柱、柱
上　　部	掘丸ﾍﾟ、柱片

S-24

規　　名	掘ﾍﾟ、柱3、柱
上　　部	掘ﾍﾟ、ﾍﾟ、柱、柱
規 色 上 部 質	掘物
上 部 質 上	掘建物
付	掘物掘柱片(1)、掘建片(1)、柱片(1)
関　係　物	掘丸(1物)(1)、柱片(1)
関　係　物	掘柱片
関　係　建	掘柱片？
丸	掘平丸（物文）、丸丸（物文）、柱片（掘H）
石　　製	品石臼

S-25

規　　名	掘ﾍﾟ、柱、柱片
上　　部	掘ﾍﾟ、ﾍﾟ
丸	掘柱片（物F）、右背丸（掘L）

S-26

規　　名	掘ﾍﾟ、柱
上　　部	掘ﾍﾟ、掘ﾍﾟ、柱片
付	掘物：11-17(1)
関　係　物	掘掘片(1)
丸	掘柱平丸
石　　製	品平R石

S-27

規　　名	掘柱、柱
上　　部	掘ﾍﾟ、柱片
規 定 質 者 者	掘柱片(1)
付	掘物：V(1)
丸	掘柱片

S-28

上　　部	掘ﾍﾟ、柱片
規 定 質 者 者	掘物：V(1)(1)

S-29

規　　名	掘柱片
上　　部	掘柱片
関　係　建	掘柱片

S-30

規　　名	掘ﾍﾟ、ﾍﾟ、柱3、柱3
上　　部	掘ﾍﾟ、掘ﾍﾟ、柱、柱
上 部 質 上	掘物
付	掘物：V-V(1)(1)、柱：1(1)
丸	掘平丸（柱？、掘H）丸丸（柱？）

S-31

規　　名	掘柱3、柱
上　　部	掘物ﾍﾟ、柱片
規 名 質 上	掘物
規 定 質 者 者	掘物：11 b(1)
関　係　物	掘柱片？

S-32

銘　名	刻愛，碑片
1:　解	刻愛，ﾊﾟｲ(イト)，碑片
行	碑(碑)片(1)

S-33

銘　名	刻ﾊﾟ，ﾊﾟ
1:　解	刻碑片

S-34

銘　名	刻愛，碑片
1:　解	刻碑片

S-35

銘　名	刻ﾊﾟ，愛，愛ｳ，碑片
1:　解	刻愛，ﾊﾟ，ﾊﾟ，愛×路
銘 拓 鑑 名 片	碑(碑：11-b(1))
鑑 抄 鑑 名 片	碑(碑(1))
行	碑(碑：V-2(1))
中　国　解	刻愛碑片(1)
国　産　解	刻碑片
出	碑子五(碑子)，碑片(碑子)，碑片

S-37

銘　名	刻鼎，愛
1:　解	刻ﾊﾟ，小鼎a，碑片
行	碑碑片(1)

S-38

1:　解	刻ﾊﾟ a，小 碑片
鑑 拓 鑑 名 片	碑(碑：1(1))
出	碑碑片

S-39

銘　名	刻ﾊﾟ，鼎ﾊﾟ，碑片
1:　解	刻ﾊﾟ a，ﾊﾟ，小鼎a
行	碑(碑：19-1(1))
中　国　解	刻鼎碑碑片(1)
出	碑子五(碑子)，五五(碑文)

S-41

銘　名	刻鼎？
1:　解	刻ﾊﾟ a，ﾊﾟ，鼎ﾊﾟ
行	碑(碑：19(1))，碑片(1)
出	碑五五(碑文)，子五(碑文)
右　賀	品博右

S-42

銘　名	刻ﾊﾟ，鼎ﾊﾟ×鼎3，愛×路
1:　解	刻ﾊﾟ，碑片
鑑 拓 鑑 名 片	碑(碑：11-2(1))
行	碑(碑：11(1))
国　産　解	刻碑片
出	碑子五(碑子，碑文)，碑片(碑(11？)
右　賀	品右賀

S-43

銘　名	刻碑片
1:　解	刻ﾊﾟ a，ﾊﾟ(イト)，ﾊﾟ，碑片
銘 者 賀 1:	刻愛
出	碑子五(碑子，碑片)

S-44

銘　名	刻ﾊﾟ
1:　解	刻ﾊﾟ，愛ｳ
国　産　解	刻碑
出	碑碑片
1:　賀	品博右碑

S-45

銘　名	刻愛
1:　解	刻ﾊﾟ a，ﾊﾟ，小鼎a
中　国　解	刻愛(1)
銘 者 賀 1:	碑碑片
出	碑子五(碑(1))

S-47

銘　名	刻ﾊﾟ，ﾊﾟ，愛
1:　解	刻ﾊﾟ a，小鼎a，小ﾊﾟ a，鼎ﾊﾟ
行	碑(碑：11(7)(1)，碑碑片(1))，碑片(1)
中　国　解	刻碑碑片(1)
出	碑子五(碑子，碑文)
右　賀	品右賀

S-48

1:　解	刻ﾊﾟ a，碑片

S-49

銘　名	刻ﾊﾟ a，愛
1:　解	刻ﾊﾟ a，ﾊﾟ，愛
解　釈　解	刻碑片
鑑 拓 鑑 名 片	碑(碑：11-b(1))
行	碑(1)(1)
出	碑子五(碑(1)，碑文)

S-51

1:　解	刻ﾊﾟ a，碑片

S-52

銘　名	刻碑片
1:　解	刻ﾊﾟ，小鼎a，碑片
行	碑(碑：V-2(1))，碑片(1)
出	碑碑片

S-53

銘　名	刻鼎3，愛
1:　解	刻ﾊﾟ，大ﾊﾟ ?，碑片

S-54

銘　名	刻碑片
1:　解	刻ﾊﾟ，愛×路
中　国　解	刻碑碑片(2)
国　産　解	刻碑片

S-56

銘　名	刻愛
1:　解	刻ﾊﾟ，小鼎a，鼎ﾊﾟ，愛×路，碑片
鑑 拓 鑑 名 片	碑(碑：1(1)，11 b(2))
国　産　解	刻碑片

S-57

銘　名	刻愛
1:　解	刻碑片
鑑 色 1: 鑑 A	刻碑片
鑑 色 1: 鑑 B	刻碑片
中　国　解	刻碑碑片(1)
国　産　解	刻碑片

S-58

銘　名	刻愛
1:　解	刻ﾊﾟ a，碑片
鑑 拓 鑑 名 片	碑(碑：1(1)-1(1))

S-59

銘　名	刻ﾊﾟ a，鼎3，愛
1:　解	刻ﾊﾟ a，小鼎a，愛
b-d 拓 鑑 名 片	碑(碑：1-b(1))
行	碑(碑片(1))
者 行 賀 × 路	碑品(1)
国　産　解	刻碑片
銘 者 賀 1:	刻碑(碑銘名)

S-61

銘　名	刻ﾊﾟ，愛
1:　解	刻ﾊﾟ c，ﾊﾟ，小鼎a，愛
行	碑(碑：111-1(1))
中　国　解	刻愛(1-1(1))
出	碑五五(碑文)，子五(碑文)
1:　賀	品博士賀

S-62

銘　名	刻愛×鼎
1:　解	刻ﾊﾟ a，小鼎a，愛×路

S-63

1:　解	刻ﾊﾟ，愛？
鑑 拓 鑑 名 片	碑(碑：1(1))

S-64

1:　解	刻ﾊﾟ a(イト)，愛

S-65

行	碑(碑愛：11(-3(1))

S-67

銘　名	刻愛
1:　解	刻ﾊﾟ，鼎？，碑片
出	碑碑片

S-68

銘　名	刻ﾊﾟ，愛
1:　解	刻ﾊﾟ，ﾊﾟ a，愛，碑片

S-69

銘　名	刻ﾊﾟ，鼎ﾊﾟ，愛
1:　解	刻ﾊﾟ a，ﾊﾟ，ﾊﾟ，小鼎a，愛
鑑 拓 鑑 名 片	碑(碑：11(1)，11-b(1)，111 b(1))
行	碑(碑：11 b(1)，19(1)，V-4 b(1)111 (1))
	碑(碑：V1-1(1)，行碑碑片(2))
中　国　解	刻愛 1(1)
出	碑碑片

S-71

銘　名	刻愛，碑片
1:　解	刻ﾊﾟ a，小鼎a，鼎ﾊﾟ，碑片
鑑 拓 鑑 名 片	碑(碑：17(1))
行	碑碑片(1)
1:　解　賀 1:	刻鼎

S-72

銘　名	測中，磁片
工　師	測中a，磁片
仕　様	磁材(1)，磁片(1)
関　係　機	測磁片
从	磁磁片

S-73

銘　名	測中，磁×Nv
工　師	測中，小型a
製 造 工 期	磁磁(1)
機 械 関 係 者	磁機：I-2(1)，I(1)

S-74

工　師	測中，磁片
仕	磁磁片(1)

S-76

銘　名	測磁
工　師	測中，電，磁片
機 械 関 係 者	磁機：II-5(4)
関　係　磁	測磁片
从	磁平从

S-77

銘　名	測磁片
工　師	測中，陶，電？
从	磁平从(磁 f)，磁片

S-78

銘　名	測中c，磁3，磁片
工　師	測中，小型a，電
機 械 関 係 者	磁機：I(1)，I-2(1)
仕	磁磁片(1)
从	磁磁片

S-79

銘　名	測磁片
工　師	測中，小型a，磁片
从	磁丸从(陶丸)，磁平从

S-81

銘　名	測電，磁片
工　師	測中a，中，磁片
磁 械 関 係 者	磁機：I(2)
仕	磁磁片(1)
从	磁丸从

S-82

工　師	測中a，磁片
中　国　陶	測電独陶磁器(1)

S-83

銘　名	測電，磁片
工　師	測中a，陶×(イト)，小型a，磁片
仕 様 工	測磁片
機 械 関 係 者	磁機：I(1)
仕	磁磁片(1)
仕	磁機：II-1(1)，磁片(4)
国　産　陶	測磁片
从	磁平从(磁1)，磁片，丸丸
仕	磁

S-84

銘　名	測中
工　師	測中，小型a，電？
仕	磁陶：V-1×VIII-1(1)
国　産　陶	測電
从	磁磁片

S-86

銘　名	測中，電，磁片
工　師	測中a，電，磁片
磁 械 関 係 者	磁機：I(1)
機 械 関 係 者	磁機：I(1)，II-4(1)
仕	磁磁片(1)
中　国　陶	測磁材(1)，磁磁片(1)
从	磁平从(磁 f，陶丸)，丸丸，磁片，丸丸

S-87

工　師	測中，小型a(イト)，電，磁片

S-89

銘　名	測中，陶，磁3，電，磁片
工　師	測中a，陶，電？？
製 造 工 期	測磁
仕 様 工	測磁
磁 械 関 係 者	磁機：I-2(1)，I(1)
仕	磁磁片(1)
中　国　陶	測磁材(1)，磁磁片(1)
国　産　陶	測磁片
从	磁平从(磁 f，陶丸)，磁片

S-90

銘　名	測中，磁3，電
工　師	測中a，中，陶×(イト)，小型a，陶c，電，磁片
仕	測磁片
機 械 関 係 者	磁機：I(1)
機 械 関 係 者	磁機：I-2(1)
材 質 関 係 者	磁機：I(1)
仕	磁機：II-1(2)，IV(3)，IV-1a(1)，VI×VII(4) II(1)，陶磁片(2)，磁片(3) 電：VII(1)，II(2)，磁(1)
中　国　陶	測又磁材(2)，電(1)，陶磁材(2)
陶　陶　陶	測磁片
国　産　陶	測磁片電，磁片
国　産　磁	測磁片
輸 入 磁 器	磁磁材
从	磁平从(磁 f，陶丸，陶II)，磁片
仕	製 品不明磁製品

S-91

銘　名	測電
工　師	測中a，丸丸陶？，磁片
製 造 工 期	磁陶
仕	磁磁：II-3×(4)
中　国　陶	測磁材磁片(1)

S-92

銘　名	測磁c，磁3，電
工　師	測中a，中，陶c
仕	磁陶：II-1(1)
中　国　陶	測磁材磁片(1)
从	磁平从(磁 f)，磁片

S-93

銘　名	測中c，電，電
工　師	測中，中a，陶c
製 造 工 期	磁磁
从	磁磁片
製 造 工 期	磁磁片
仕	磁磁片(1)
仕	磁磁：V-1(1)
中　国　陶	測磁：II-1(1)
国　産　陶	測磁片
从	磁平从(磁丸，磁 f，陶II)

S-94

銘　名	測中a，中，電
工　師	測中a，電×陶
製 造 工 期	磁陶c：II-4(2)
仕	磁磁：II(1)
中　国　陶	測磁材磁片(1)
国　産　陶	測磁片
国　産　磁	測磁片
从	磁磁片(磁 f)

S-96

銘　名	測磁3，電
工　師	測中c，磁片
从	磁磁片

S-97

銘　名	測中？，電，磁片
工　師	測中，磁片
仕 様 工	測磁
機 械 関 係 者	磁機：I-2(1)？I-5(3)
仕	磁磁：V-III(2)，II-1(1)
中　国　陶	測磁材(1)
国　産　陶	測磁片
国　産　磁	測磁片
从	磁磁片

S-98

銘　名	測中，磁3，電
工　師	測中a，中，陶×(イト)，小型a，陶c，電，磁片
从	測磁片
機 械 関 係 者	磁機：I(1)
機 械 関 係 者	磁機：I-2(1)
材 質 関 係 者	磁機：I(4)
仕	磁機：II-1(2)，IV(3)，IV-1a(1)，VI×VII(4) II(1)，陶磁片(2)，磁片(3) 電：VII(1)，II(2)，磁(1)
中　国　陶	測又磁材(2)，電(1)，陶磁材(2)
陶　陶　陶	測磁片
国　産　陶	測磁片電，磁片
国　産　磁	測磁片
輸 入 磁 器	磁磁材磁器
从	磁平从(磁 f，陶丸，陶II)，磁片
仕	製 品不明磁製品

緑瓦（コンクリート瓦）

銘　名	測中，磁b，電，磁片
工　師	測中a，中，小型a，小型a(イト)，陶c，中
仕 様 工	測磁
仕 様 工	測磁
機 械 関 係 者	磁機：I-5(1)，中：III-3(1)
仕	磁磁片(1)
仕	磁機：IV(3)，IV-1a(1)，V×VIII 2(1) 丸丸磁II(1)
从	磁平从(磁 f，陶丸，陶II)，丸丸(陶丸)
仕	製 品丸？△イ・・
仕	製 品不明磁製品

瓦瓦（明瓦色砂，内側）

銘　名	測中，陶c，電，磁片
工　師	測陶c，磁片
仕	磁陶：IV(1)
仕 様 工	測磁片
从	磁平从(磁II)

青灰色土（北西隅）

須恵器	坏
土師器	甕、破片
青白磁	破片(1)
黒釉陶器	天目碗(1)

青灰色土（西側）

須恵器	坏、蓋3、甕
土師器	坏a、小皿a
白磁	破片(1)
中国陶器	壺II-1(1)
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶器
中国陶器	破片
瓦器	破片

青灰色土（東側）

須恵器	甕
土師器	坏a、坏a(イト)、坏、小皿a、小皿b
黒色土器A類	破片
白磁	碗破片(1)
国産磁器	現代磁器
瓦	丸瓦(無文)

青灰色土（中央）

須恵器	甕、破片
土師器	坏a、坏、小皿a、椀c、甕
土師質土器	鉢、羽釜
緑釉陶器	皿
白磁	碗：IV(1)、V(1)、V-4×VIII-1(1)、V-1×VIII-2(1)
	皿：V×VI(1)
国産陶器	破片

青灰色土

須恵器	高坏、蓋3、破片
土師器	坏、椀c、破片
須恵質土器	鉢?
龍泉窯系青磁	碗I(1)
白磁	碗：V-1×VIII-2(1)、V-4×VIII-1(1)、破片(1)
	皿II-1(1)、壺(3)
国産磁器	破片
瓦	平瓦(縄目)

淡灰色砂（西側）

須恵器	坏a、坏c、坏、蓋c、蓋3、蓋、蓋4、蓋1
	甕、鉢、鉢×壺、長頸壺、壺a
土師器	坏a(ヘラ)、坏a、坏a(イト)、坏c、小皿a、
	小皿a(ヘラ)、小皿a(イト)、小皿a2、椀c、太脚
	丸底坏a、丸底坏c、高坏?、鉢、甕、破片
瓦器	椀c
瓦	平瓦(格子、縄目、無文)、丸瓦(無文)、瓦玉
須恵質土器	鉢(東播)、破片
瓦質土器	擂鉢
灰釉陶器	破片
緑釉陶器	破片
越州窯系青磁	碗：I(2)、I-2a(1)、II(3)、III?(1)
	坏：I-2(1)
長沙窯系青磁	壺(1)
龍泉窯系青磁	碗：I(12)、I-2(1)、I-4(2)、II-a(2)、II-b(11)
	III-2(3)、小碗I(1)、底II碗II-b(1)
	皿I(2)、坏III-5(1)、破片(3)
同安窯系青磁	碗：I(1)、I-1b(8)、I-1c(1)、III-1c(2)
	III-1b(1)、III-1c(1)
	皿I(3)、破片(4)
高麗青磁	碗：II(1)、III(1)
青磁	破片(1)
白磁	碗：II-4b(1)、II-1(1)、II(4)、II-5(2)、IV(12)
	IV-1a(5)、V(6)、V-1b(1)、V~VIII(1)
	VI-1b(1)、V-4×VIII-1(8)、V-1×VIII-2(7)
	VIII(5)、IX(2)、XI-1×2(1)、X(1)
	碗II(3)、碗破片(32)
	皿：III-2(1)、II×III(4)、V×VI(2)、VI-1a(1)
	VI-1(1)、V(1)、VII(1)、XI?(1)、IX(2)
	破片(2)
	合子蓋(1)、壺III(4)、壺破片(1)、白磁破片(22)
中国陶器	壺類：IV(1)、A群(1)、破片、耳壺(1)
	鉢：I(1)、I-1b(1)、IV-2(1)
	甕破片(2)、盤I(1)、盤I-2(1)、A群(1)、B群(4)
	C群(4)、破片(1)
青白磁	壺(1)
国産陶器	破片(3)
陶器	破片(2)
縄文土器	鉢
金属製品	鉱滓
土製品	焼土、鞴羽口、土錘
石製品	滑石片、黒曜石片

淡灰色砂（中央）

須恵器	坏、坏c、皿a、蓋3、蓋、蓋c、高坏、蓋1、坏身
	甕、鉢b、鉢?、壺×鉢、壺、壺b、壺e、
	大甕、大甕b、破片
土師器	坏a、坏a(イト)、坏a(ヘラ)、坏a(墨付)、小皿a
	小皿(イト)、小皿b、皿a、椀c、椀、脚付椀
	丸底坏a、蓋3、把手、竈?、甕、小壺、破片
黒色土器A類	椀c
黒色土器B類	椀c、皿a
瓦器	椀c、破片
土師質土器	鉢
須恵質土器	鉢、擂鉢、片口鉢、椀、大甕
瓦質土器	鉢、擂鉢、羽釜
緑釉陶器	椀×皿
灰釉陶器	皿?
越州窯系青磁	碗：I(3)、I-3(1)、I-2a(3)、I-2a?(2)、II(2)
	I-3×4(1)、II-2(2)、II-1b(1)
	大碗：I-2?(1)、I-2(1)、II(1)、壺II(1)
龍泉窯系青磁	碗：I(52)、I-2(15)、I-3(1)、I-4(3)、I-6a(1)
	II-a(9)、II-b(54)、II(1)、III(1)、IV?(1)
	III-2c(1)、III-2(1)、I類小碗×坏(1)
	皿I(2)、白磁破片(8)
	坏：III(1)、III-2(1)、III-4(1)、III-3b(1)
同安窯系青磁	碗：I-1a(2)、I-1b(18)、I-1c(2)、I(10)、III(4)
	III-1b(1)、碗破片(4)
	皿：I(8)、I-1a(2)、I-1b(2)、I-2b(2)
高麗青磁	碗I-1(1)
青磁	壺(1)
白磁	碗：II-1(1)、II(9)、II-1(11)、II-b(1)、II-3c(1)
	II-4b(1)、II-5(1)、IV-1a(8)、V(16)
	V-4×VIII-1(23)、V-1×VIII-2(20)、V-1(3)
	V-1a(2)、V-2(2)、V-2a(1)、V-2b(2)、V-3(4)
	V-4(4)、V~VIII(7)、VI(1)、VI-1a(1)
	VI-1b(1)、V×VI(1)、VII(2)、VIII(14)
	VIII(碗II)(2)、IX-1(1)、IX(1)、IX-2(1)
	XIII-b(2)、碗II破片(7)、碗破片(189)
	皿：II-1(3)、II×III(20)、VIII-1b(2)、III-2(1)
	III-1(6)、IV-2(1)、V(3)、V-2a(3)
	VI×VII(11)、VI-1(10)、VI-1a(5)、VI-1b(1)
	V×VI(3)、VII-2b(1)、VIII(2)
	IX-2(2)、IX-1(10)、IX(34)、XI(1)
	壺：耳壺(1)、四耳壺III(1)、壺破片(4)、壺III(15)
	小壺(2)、合子蓋(2)
	碗XIII×鉢II(1)、鉢II-1(2)、白磁破片(11)
中国陶器	壺：耳壺C群(2)、C群破片(1)、B群破片(1)
	耳壺B群(7)、壺B群(5)、壺IV(2)、耳壺XI(1)
	耳壺XIV?(1)、耳壺XIII(1)、耳壺XII-1(1)
	壺破片(1)
	鉢：I(2)、I-1(2)、I-1(1)、I-2b(1)、I-1b(2)
	II-1a(1)、VI-1(1)
	甕破片(7)
	盤：I(8)、I-2(1)、II-1(2)、II(1)、盤破片(1)
	C群破片(5)、B群破片(44)、A群破片(7)、破片(4)
青白磁	碗(7)、壺(1)、合子蓋(1)、合子身(1)、破片(2)
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶器広口壺
国産陶器	坏、瓶、擂鉢、破片、常滑破片
黒釉陶器	天目碗(2)
弥生土器	壺
瓦	平瓦(格子、無文、縄目、破片)、瓦玉、文字瓦
	丸瓦(格子、無文、破片)、塼
石製品	滑石片、砥石?、石鍋
金属製品	鉱滓、不明鉄製品
その他	[illegible]

1トレンチ淡灰色砂（西側）

須恵器	坏c、坏、甕
土師器	坏a、坏a(イト)、坏、椀c、破片
瓦質土器	鉢
越州窯系青磁	坏×皿I(1)、I?破片(1)
龍泉窯系青磁	碗：I(1)、II-b(2)、破片(1)
同安窯系青磁	碗：I(1)、I-1b(1)
白磁	碗IV(2)、碗破片(2)、皿V×VI(1)、破片(3)
中国陶器	鉢I-2b(1)
瓦	平瓦(格子、縄目)、丸瓦(無文)

2トレンチ淡灰色砂（東側）

須恵器	坏a、甕、破片
土師器	坏a、坏、小皿a、破片
瓦器	破片
瓦質土器	火鉢
中国陶器	鉢?A群破片(1)、甕(1)
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶器
国産陶器	破片
瓦	平瓦(無文、縄目)、丸瓦(格子、無文)

淡灰色砂（東側）

須恵質土器	鉢、擂鉢
龍泉窯系青磁	碗：I(1)、II-b(1)、皿I(1)
同安窯系青磁	碗I-1b(1)
白磁	碗：II(1)、IV(1)、IV-2(1)、V~VIII(2)、V-2(1)
	碗破片(3)、白磁破片(3)
	皿IV-2(1)、壺(1)
青白磁	破片(1)
中国陶器	鉢I?(1)、甕破片(1)
石製品	[illegible]

3トレンチ検区色砂（金剛）

別　名	銅ﾔｷ、鉄、硬片
主　体	銅ﾔｷ、鉄ｽﾗｸ、鉄
鉱色質上	銅緑
火　質　上	銅色
鉱物及ぶ産状	銅鉱：Ⅰ(Ⅲ)、Ⅱ(ⅰ-α)、Ⅲ(Ⅱ)、Ⅳ(Ⅲ(Ⅰ))
鉱物及ぶ産状	銅鉱：Ⅰ-Ⅰ(Ⅰ)、Ⅰ-2a(Ⅰ)、Ⅲ(Ⅰ)
石	銅鉱：Ⅳ-3a(Ⅰ)、Ⅳ(2)、Ⅴ-4×Ⅶ(Ⅰ-1(Ⅰ) Ⅴ-1×Ⅶ(Ⅰ-2(Ⅰ))、輝緑片(Ⅰ) 金(Ⅳ 2a(Ⅰ))、小銅(Ⅰ)、石輝緑片(5)
中　間　物	銅鉱(Ⅳ-1(Ⅰ))、輝緑緑片(Ⅰ) 銅(Ⅰ)、石輝緑片(Ⅰ)
火	鉄ｽﾗｸ(鉄ﾔ、鉄(Ⅰ)、A.火(鉄ﾔ、無文)

鉄上（内側面）

石　質	品石質？

現点（農業用水）

別　名	銅ﾔｷ、鉄、硬
主　体	銅ﾔｷ、小銅、小鉄(イト)、鉄ﾔ、鉄
鉱物及ぶ産状	銅鉱：Ⅰ(2)、Ⅱ-1-2(Ⅰ)、輝緑片(Ⅰ)
火質及ぶ産状	銅鉱Ⅰ-2b(Ⅰ)
石	銅鉱：Ⅳ(2)、Ⅴ(2)、輝緑片(Ⅰ) 金、Ⅳ(Ⅰ)、石輝緑片(4)
中　間　物	銅鉱Ⅰ-1a(Ⅰ)
火	鉄ﾔ火(鉄ﾔ、無文)、A.火(無文)
土　製	品地土塊

Z（出土地不明）

別　名	銅ﾔｷ、鉄ｽ、鉄
主　体	銅ﾔｷ、鉄ﾔ
鉱物及ぶ産状	銅鉱：Ⅰ-2(Ⅰ)、Ⅱ-a(Ⅰ)、Ⅲ-2(Ⅰ)
火質及ぶ産状	銅鉱：Ⅰ-1a(Ⅰ)
石	銅鉱：Ⅶ(Ⅰ)、硬片(Ⅰ)、石輝緑片(Ⅰ)
関連遺跡	鉄ﾔ
現在質上	銅鉱(本質産)

Tab.4　大宰府条坊跡第70次調査　土師器計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-7

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小鉢a	イト	8-001	Fig.4-5	(8.5)	1.25	(6.2)	×	ヌ

S-47

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小Mｓ	－	8-001	Fig.4-1	(8.0)	1.65	(5.4)	－	－
	小鉢a	イト	8-002	Fig.4-10	(8.0)	0.85	(7.0)	－	○

S-69

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小鉢a	－	8-001	Fig.4-6	(8.4)	1.0	(6.4)	－	○

S-83

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小鉢a	イト	8-001	Fig.4-9	(6.0)	0.8	(7.0)	－	－

S-98

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小鉢a	－	8-001	Fig.4-4	(7.0)	0.5	(5.1)	－	－

南東色土（東側）

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小鉢a			Fig.4-3					

南東色砂（内側）

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小鉢a	－	8-006	Fig.9-1	(8.7)	0.9	(6.0)	－	－
	〃	－	8-007	Fig.9-2	(9.2)	1.0	(7.6)	－	－
	〃	－	8-008	Fig.9-3	(9.1)	1.0	(6.5)	－	－
	小鉢b	－	8-009	Fig.9-5	(7.4)	1.8	(5.0)	－	－
	〃	－	8-010	Fig.9-4	(8.1)	1.5	(4.2)	－	－

南東色砂（中央）

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小鉢a	イト	8-063	Fig.5-31	(7.0)	1.8	(4.0)	×	ヌ
	小鉢a		8-064	Fig.5-9			(4.0)	－	－
	〃	イト	8-065	Fig.5-12	(7.0)	1.0	(6.0)	－	○
	〃	×	8-066	Fig.5-13	(8.0)	0.9	(6.4)	－	×
	〃	ﾍﾗ？	8-067	Fig.5-14	(8.0)	0.6	(6.0)	－	－
	〃		8-068	Fig.5-11	(7.6)	0.85	(5.4)	－	－
	〃	－	8-069	Fig.5-18	(8.5)	0.9	(6.1)	－	○
	〃	－	8-070	Fig.5-22	(9.3)	0.7	(7.4)	－	○
	〃	－	8-071	Fig.5-21	(8.1)	0.8	(7.0)	－	○
	〃	イト？	8-072	Fig.5-20	(8.0)	1.0	(7.5)	－	－
	Mｓ(b)	－	8-073	Fig.5-35	(12.4)	2.6	(8.8)	－	－
	〃	イト	8-074	Fig.5-36	(14.0)	2.35	(9.6)	×	－
	Mｓ	〃	8-075	Fig.5-23	(12.0)	2.5	(8.6)	－	－
	〃	－	8-076	Fig.5-34	(14.8)	1.95	(11.0)	－	－
	小鉢a	－	8-077	Fig.5-16	(8.4)	0.9	(7.0)	－	－
	〃	イト？	8-078	Fig.5-19	(7.2)	1.05	(5.0)	－	×
	〃	－	8-079	Fig.5-17	(8.0)	0.85	(6.4)	－	○
	〃	－	8-080	Fig.5-15	(8.1)	1.1	(5.4)	－	○
	小鉢b	イト？	8-081	Fig.5-30	(7.1)	1.5	(4.4)	－	－
	小鉢a	イト	8-082	Fig.5-38	(8.8)	1.35	(7.2)	－	○
	〃	－	8-083	Fig.5-29	(10.0)	0.85	(7.0)	－	○
	〃	－	8-084	Fig.5-10	(8.8)	1.0	(6.4)	△	○
	Mｓ	イト	8-085	Fig.5-32	－	－	(6.4)	－	－
	小鉢a	－	8-086	Fig.5-28	(8.8)	0.9	(6.0)	－	○
	〃	－	8-087	Fig.5-33	(8.0)	1.3	(7.4)	－	×
	〃	－	8-088	Fig.5-27	(9.8)	0.85	(7.0)	△	－
	〃	ハﾗﾐ？	8-089	Fig.5-24	(8.0)	0.65	(7.0)	×	×
	〃	－	8-090	Fig.5-25	(8.4)	0.7	(6.3)	－	－

現点

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小鉢a	イト	8-001	Fig.4-8	(8.0)	0.9	(6.0)	－	×
	〃	－	8-002	Fig.4-7	(8.5)	0.9	(6.0)	－	－
	Mｓ	イト？	8-003	Fig.4-2	－		(5.0)	－	－

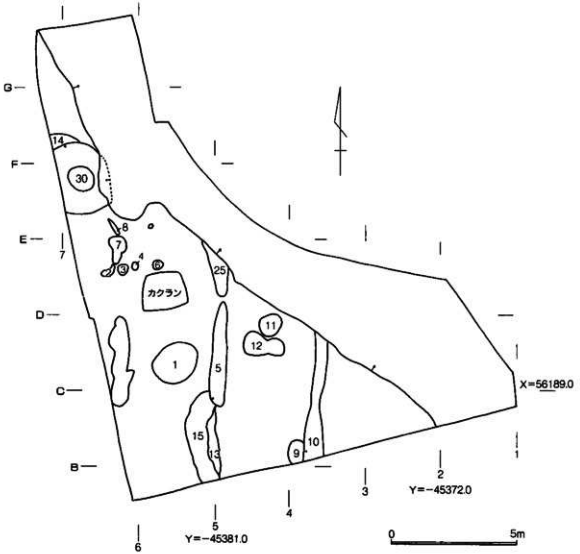


Fig.25　第187次調査略測図（1/150）

Tab.5　大宰府条坊跡187次調査　遺構番号台帳

S-番号	遺構番号	種別	時期	地区
1	187SK001	土坑　灰褐色土	平安中期	C5
2		ピット		D6
3		ピット		D6
4		ピット		D6
5	187SD005	溝　暗灰色土　S-25と同一遺構か?　S-15→S-5	Ⅻ・Ⅻ期	5ライン
6		ピット		D5
7		土坑		D6
8		ピット		E6
9		土坑		B3
10	187SD010	溝　暗灰褐色土　S-9→S-10→S-20	Ⅹ・Ⅻ期	B・C3
11		土坑		C4
12		土坑		C4
13		溝?		B5
14		土坑　明灰色土		F6
15	187SD015	溝　明灰色土　S-15→S-5	平安	B5
20	187SX020	凡鹿原　茶灰色土		
25	187SD025	溝　S-25→S-20	Ⅻ・Ⅻ期	D4
30	187SE030	井戸	幕期	E6

Tab.6　大宰府条坊跡187次調査　遺物一覧表

S-1

遺構名	溝Ha、巻、硯片
上層	溝Ha、小皿a、小皿c、椀c、硯片
九州	朝平瓦（格子、文字瓦）
縄文時代	縄文

S-2

遺構名	溝Ha、巻
上層	溝Ha
九州	朝硯片
石器	剥離　V(1)

S-3

遺構名	溝巻、硯片
上層	溝Ha、硯片

S-4

上層	溝硯片
九州	朝九瓦（無文）

S-5

遺構名	溝Hc、Hf、巻、蓋3
上層	溝小皿a、Ha、椀c、小皿c、九底Ha、蓋3
	巻、硯片
黒色土器A	朝椀、硯片
黒色土器B	朝硯片
九州	朝硯片（格子、圏線）、硯片
石器	品剥石
縄文時代	朝硯片
石器	剥離：IV×XI-1(1)
上製	品陶硯片1

S-6

上層	溝Hc
石器	剥小剥V(1)

S-7

遺構名	溝硯片
上層	溝椀c、硯片
	溝平瓦硯片
石器	剥硯片(1)

S-9

上層	溝硯片

S-9

遺構名	溝巻、坪硯片、巻×蓋1接続
上層	溝Ha、Hc
縄文時代	縄：I-2ア(1)
九州	朝平瓦（格子）、平瓦（格子）

S-10

遺構名	溝Ha、Hc、Hf、巻
上層	溝小皿a、Ha、Hc、椀c、九底Ha、巻
黒色土器A	朝椀c
縄文時代	縄：I17(1)
九州	朝平瓦（格子、硯片）
石器	品剥片（黒曜石）
弥生時代	朝器（須恵器）

S-11

遺構名	溝硯
上層	溝硯片

S-12

遺構名	溝蓋c、巻
上層	溝Hc、椀c
九州	朝硯片

S-13

遺構名	溝巻、蓋3
上層	溝Hc、Hf、小皿
九州	朝平瓦（圏線）

S-14

遺構名	溝蓋3、Hc
上層	溝Hc、巻、硯片
黒色土器B	朝硯片

S-15

遺構名	溝Hc、巻
上層	溝Ha、椀c、巻
黒色土器A	朝硯片
九州	朝九瓦（無文）、平瓦（無文）

S-20

遺構名	溝Hc、巻、巻、硯片
上層	溝小皿a、Ha、Hf、九底c、椀c
黒色土器A	朝椀c
黒色土器B	朝椀c、椀
縄文時代	縄：I-2(1)
九州	朝平瓦（圏線）
石器	品剥石、石器
縄文時代	縄：II-1(1)、鉢：II(1)、IV～VII(1)
	鉢：II-2×IV(1)、硯片(1)
金属製品	品不明銅製品

S-25

遺構名	溝Hc、巻
上層	溝小皿a、Ha、Hf、椀c、九底Ha、巻
九州	朝平瓦（格子、無文）

S-30橙色土

遺構名	溝Ha、巻、硯片
上層	溝Hc、巻
縄文時代	縄：I(1)
九州	朝平瓦（格子）

S-30明灰色土

遺構名	溝Ha、Hc、高杯、蓋3、巻
上層	溝Ha、Hc、Hf、巻、硯片
黒色土器A	朝硯片
縄文時代	縄：II(1)
九州	朝平瓦（圏線、無文、格子）、硯片、瓦B
弥生時代	朝硯片

S-30黄褐色

遺構名	溝Ha、Hc、巻
上層	溝Ha、巻、硯片
黒色土器B	朝硯片
九州	朝平瓦（無文、圏線）、格子）、九瓦（無文）

S-30明灰色砂レキ

遺構名	溝Hc、巻、硯片
上層	溝Ha、椀c、Hf、巻、硯片
九州	朝平瓦（無文）、九瓦（無文）
石器	品石器、平玉石
縄文時代	朝硯片

S-30九色粘土

遺構名	溝蓋
上層	溝Hf、椀c、巻、巻×蓋
九州	朝平瓦（無文、格子）

S-30灰色砂

遺構名	溝硯片
上層	溝Hc、椀、硯片
九州	朝平瓦（無文）
石器	品平玉石

S-30黒色土

上層	溝Ha、Hc、Hf、硯片
九州	朝平瓦（圏線）
弥生時代	朝石器

S-30灰色土

遺構名	溝蓋1、蓋2、Ha、Hc、Hf、巻
上層	溝小皿c、椀c、Ha、Hc、Hf、巻
黒色土器A	朝硯片
縄文時代	縄：II(1)、鉢×III(1)
九州	朝平瓦（圏線、無文、格子）、九瓦（格子）

S-30黒色土

遺構名	溝蓋3、Hf、蓋、巻、蓋c、蓋1
上層	溝Ha、Hc、Ha（イト）、巻、硯片、椀c
黒色土器A	朝椀、硯片
黒色土器B	朝椀c
縄文時代	縄：I(1)、I 2ア(1)、II(1)、青磁鉢形IV(1)
弥生時代	朝器IV(1)
土製品	朝鞴、硯片
国産陶	朝硯片(1)
石器	縄：I-4×XI-1(1)、IV(2)、IV～VIII (1)
	剥硯片(6)、硯片(1)
中国陶	朝白磁皿(1)
九州	朝平瓦（圏線）、格子）、九瓦硯片、瓦B
石器	品平玉石、石器、剥石
上製	品土錘

表土

遺構名	溝巻、Hc
上層	溝Ha、高杯、巻、椀c、硯片
縄文時代	縄：I-2(1)、I-5(1)、硯片(1)
弥生時代	縄：I-1(1)
九州	朝平瓦（圏線、無文、格子）、硯片（格子）
石器	品平石

Tab.7　大宰府条坊跡第187次調査　土師器計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-1

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	M_a	＊	B-002	Fig.14-31	－	－	－	－	－
	＊	－	B-003	Fig.14-30	－	－	－	－	○
	小皿a		B-004	Fig.14-29	(10.8)	－	－	－	－
	小皿c	ヘラ	B-006	Fig.14-29	(13.8)	3.2	(7.1)	－	×

S-5

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	M_a	－	B-001	Fig.15-17	(11.1)	1.9	(5.3)	－	○
	小皿a	ヘラ?	B-002	Fig.15-6	(8.7)	1.4	(5.6)	－	○
	＊	－	B-003	Fig.15-5	(8.6)	0.9	(7.2)	－	－
	＊	－	B-004	Fig.15-7	(9.7)	0.95	(7.7)	－	－
	M_b	－	B-005	Fig.15-18	－	－	(7.5)	－	－
	＊	－	B-006	Fig.15-18	－	－	(6.9)	－	－
	小皿a	ヘラ?	B-007	Fig.15-13	(10.0)	1.45	(7.4)	△	○
	＊	ヘラ	B-008	Fig.15-15	(10.1)	1.4	(7.1)	○	－
	＊	－	B-009	Fig.15-12	(9.9)	1.4	(7.2)	△	○
	＊	－	B-010	Fig.15-11	(9.9)	1.0	(8.0)	－	－
	＊	－	B-011	Fig.15-14	(10.0)	1.35	(7.4)	－	－
	＊	－	B-012	Fig.15-2	(9.1)	0.95	(6.8)	－	－
	＊	ヘラ?	B-013	Fig.15-4	(9.3)	1.2	(7.0)	－	△
	丸皿M_a	－	B-014	Fig.15-20	(16.1)	－	－	－	－
	小皿a	－	B-015	Fig.15-6	(9.6)	0.9	(7.7)	－	○
	＊	－	B-016	Fig.15-16	(10.5)	1.0	6.3	○	×
	＊	－	B-017	Fig.15-9	(9.8)	1.2	(7.8)	－	－
	＊	－	B-018	Fig.15-1	(8.7)	1.05	(6.6)	○	○
	＊	－	B-019	Fig.15-10	(9.8)	1.0	(7.4)	×	×
	＊	－	B-020	Fig.15-3	(9.2)	0.9	(7.6)	×	×

S-10

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	ヘラ?	B-001	Fig.15-22	(10.6)	1.9	(6.4)	△	○
	M_a	ヘラ?	B-002	Fig.15-23	－	－	－	×	－
	丸皿M_a	－	B-004	Fig.15-25	(15.6)	－	－	－	－
	M_b	－	B-005	Fig.15-24	－	－	(8.2)	－	－

S-15

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	M_a	ヘラ?	B-001	Fig.15-27	－	－	－	－	－
	M_b		B-002	Fig.15-28	－	－	(7.6)	－	－

S-25

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿a	－	B-001	Fig.15-29	(10.0)	1.1	(6.6)	－	－
	丸皿M_a	－	B-002	Fig.15-31	(16.2)	2.6	－	－	－
	M_b	－	B-003	Fig.15-30	－	－	6.2	△	○

S-30明灰色赤レンガ

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	M_a	ヘラ	B-002	Fig.14-13	－	－	－	○	－
	＊	ヘラ	B-003	Fig.14-12	－	－	(7.2)	○	○
	M_b	－	B-004	Fig.14-16	－	－	(6.1)	○	－
	M_b	－	B-005	Fig.14-14	(12.4)	－	－	－	－

S-30明灰色上

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	M_a	ヘラ?	B-001	Fig.14-25	－	－	－	－	－
	＊	ヘラ?	B-002	Fig.14-26	－	－	－	－	－

S-30灰色粘土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	M_b		B-001	Fig.14-10	＊	－	－	－	－

S-30黒色上

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	M_a	ヘラ	B-001	Fig.14-6	－	－	－	(6.0)	－

S-30灰色上

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土	M_b		B-001	Fig.14-4	(12.9)	5.9	(9.1)	－	－
	＊		B-002	Fig.14-3	－	－	(8.6)	－	○
	小皿c	ヘラ	B-003	Fig.14-1	(2.3)	2.1	4.6	○	×
	＊		B-004	Fig.14-2	13.2	2.6	7.8	－	○

Tab.8　大宰府条坊跡188次調査　遺物一覧表

暗褐色土

遺構	第Hv、第3、第6、第7期、第8×第9、第11期、第12
土師	第Hv、第6、第7、第8、第9、第11、第12、第13期、第17
	第6、第17、第21
黒色土器A類	第6期
黒色土器B類	第6期
須恵器	第Hv、第6、第7、第8×第9(1)、1-5(1)、1期×2期(1)
瓦	軒平瓦（第2期）、軒丸、特定
石製	砥石(6)（黒曜石）、海石片
鉄製品	第6期
銅製品	第6期(2)
石	第6期(2)
金属製	鉄釘、金具断面品

灰白色土

遺構	第Hv、3、第4、第5、第6、第7
土師	第Hv、Hv（第7?）、Hv、Hv2、第3、第7、第12、第17
黒色土器A類	第6期片？
黒色土器B類	第6期

黒灰色土

遺構	第第6、第7、第8、第9、第11、第12×第9、第13
土師	第Hv、第7、第12、第13
黒色土器A類	第6期片
黒色土器B類	第6期
瓦	軒平瓦（特定、第2）、軒丸（第7）
金属製	鉄釘

灰褐色土

遺構	第Hv、Hv2、第3、第7、第8?、第9?、第12、第17
	第7?、第8、第9、第11、第12
土師	第Hv、小皿a2、第6、第8?、第9、第12、第13、第17
	第8、第9（角張石含む）
須恵器	第8期
黒色土器A類	第6期
須恵器	1(1)、1-1a(1)、1-3×1(1)、1(1)
瓦	軒平瓦（特定、第2）、軒丸（第7）、丸瓦（第7）、特定
鉄製品	第6期片(1)
銅製品	第6期片(1)
銅製品	第6期片(2)
金属製	鉄釘、鉄製品、鉄釘、鉄製金具、鉄片

暗褐色土

遺構	第Hv、第3、第7期、1-1×1-2a(1)

炭土

遺構	第Hv、第4、第6、第7、第8?、第9、第11、第12、第13
土師	第Hv、第7、第8、第9、第11、第12、第13、第17
黒色土器A類	第6期
黒色土器B類	第6期
須恵器	1(1)、1-1a(1)、1-3×1(1)、1(1)
瓦	軒平瓦（特定、第2）、軒丸（第7）、丸瓦（第7）、特定
石	第6期
金属製	鉄釘(2)、鉄製品、鉄釘、鉄製金具、鉄片

炭土

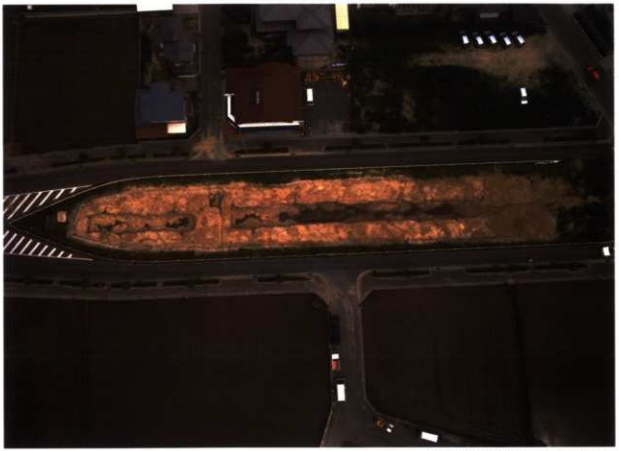
遺構	第Hv、第4、第6、第7、第8、第9、第11、第12、第13、第17
土師	第Hv、第6、第7、第8、第9、第11、第12、第13、第17
黒色土器A類	第6期
黒色土器B類	第6期
須恵器	1(1)、1-1a(1)、1-3×1(1)、1(1)
瓦	軒平瓦（特定、第2）、軒丸（第7）、丸瓦（第7）、特定
石	第6期
金属製	鉄釘(2)、鉄製品、鉄釘、鉄製金具、鉄片

写真図版

※遺物写真中の番号は図版番号を示す。

例　7－72

Fig.番号　挿図番号



第70次調査区全景（上が北）

第70次調査雪降る中での作業風景（西から）

第187次調査区全景（上が北）

第187次調査区から西側を望む

第187次調査道路状遺構（上が北）

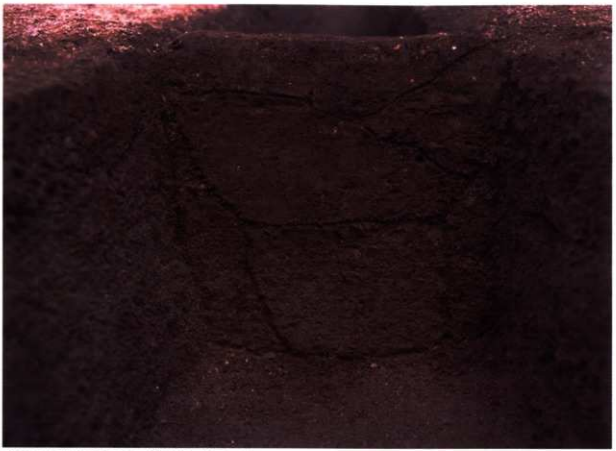
第187次調査SE030全景（西から）

第187次調査SE030井戸枠と裏込め石検出状況（東から）

第187次調査SE030裏込め石断面状況（東から）

第187次調査SE030裏込め石除去後状況（東から）

第187次調査SE030井戸枠状況（東から）



第187次調査SD005土層状況（南から）

第187次調査SD010土層状況（北から）

第188次調査区西トレンチ全景（北から）

第188次調査区東トレンチ全景（北から）

第188次調査区西トレンチ土層状況（西から）

第188次調査区西トレンチ段落ち立ち上がり状況（西から）

6-69

6-70

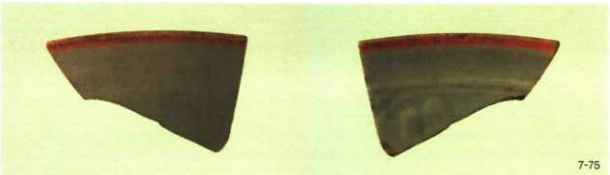
7-72

7-76

7-77

第70次調査出土遺物

7-74



7-75

10-6

4-19

9-10

8-87

第70次調査出土遺物

14-1

14-2

14-16

14-7

15-21

第187次調査出土遺物

第188次調査出土遺物

報告書抄録

ふりがな	だざいふじょうぼうあと
書名	大宰府条坊跡 23
副書名	第70・187・188次調査
シリーズ名	太宰府市の文化財
シリーズ番号	70集
編著者	宮崎亮一
編集機関	太宰府市教育委員会
所在地	福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号
発行年月日	2005（平成17）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	西暦 【横山座定電】	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	座標 X	座標 Y	調査期間 開始	調査期間 終了	調査面積 ㎡	調査原因
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡　第70次	右郡9条4・5B	太宰府市 通古賀2・5丁目	402214	210059-070	56198.88	-45295.35	19880212	19880301	400	区画整理
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡　第187次	右郡9条5・6B	太宰府市 通古賀2丁目	402214	210059-187	56189.0	-45381.0	19961203	19970109	173	店舗建設
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡　第188次	右郡9条5B	太宰府市 通古賀5丁目	402214	210059-188	56156.0	-45333.0	19961203	19961222	63	建築調査

所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構	主要遺物	特記事項
大宰府条坊跡　第70次	都城跡	平安・鎌倉	柱穴跡	須恵器　土師器　陶器類　瓦 灰釉陶器　緑釉陶器　銭文土師	
大宰府条坊跡　第187次	都城跡	平安	井戸、土坑、溝	須恵器　土師器　陶器類　瓦 石斧　緑釉陶器	
大宰府条坊跡　第188次	都城跡	奈良・平安	溝	須恵器　土師器　陶器類　瓦 円面硯	

太宰府市の文化財　第70集

大宰府条坊跡23

—第70・187・188次調査—

平成17年3月

編集　太宰府市教育委員会
発行　太宰府市観世音寺1-1-1
印刷　大同印刷㈱
佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20